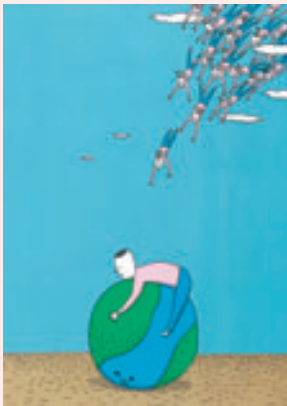




ニッケグループ 環境報告書 2011



人と地球に「やさしく、あったかい」
企業グループをめざして



“人と地球に「やさしく、あったかい」企業グループ” であることを経営理念に掲げて、繊維事業のみに とどまらない多角的な事業で成長をめざしています



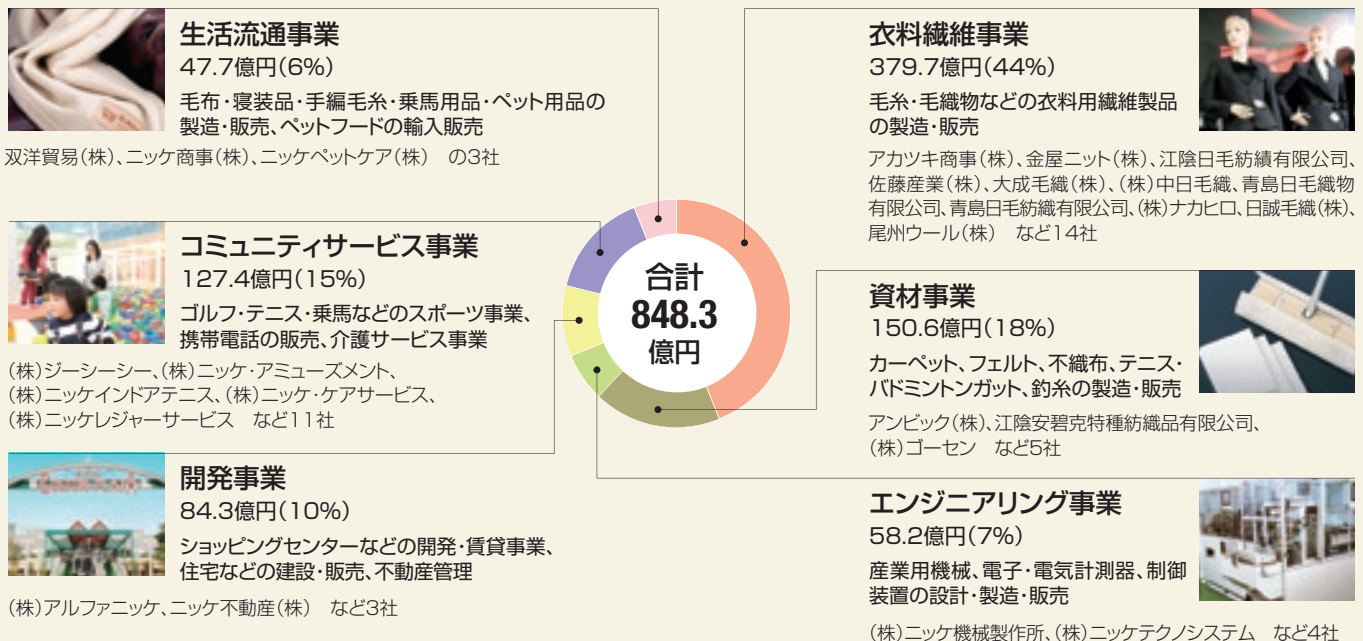
新マスコットシーブ
「うーるん」
「ウール」の持つ「やさしく、
あったかい」を表すシンボル
として活躍しています。

ニッケは1896年の創業以来、ウールの総合メーカーとして高い評価を得てきました。現在では繊維事業にとどまらない多角的な事業を展開し、ニッケグループを形成しています。110年あまりにわたって受け継がれてきた創業時のチャレンジ精神と、経営理念にある「やさしく、あったかい」企業風土で、持続可能な成長をめざしています。

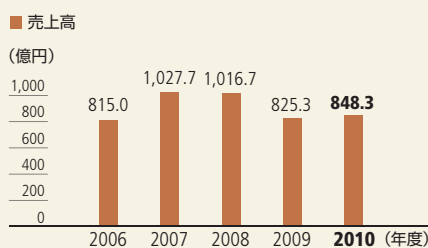
会社概要

通称社名	ニッケ	代表者	取締役社長 佐藤 光由
社名	日本毛織株式会社	資本金	6,465百万円
所在地	大阪市中央区瓦町三丁目3番10号	売上高	連結 848.3億円
設立	1896年(明治29年)12月3日	従業員	連結 4,049名 ※2010年11月現在

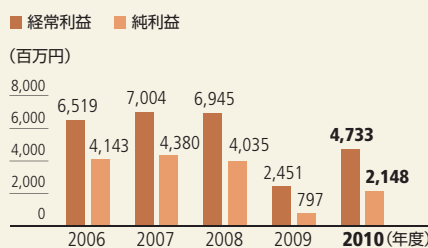
ニッケグループの事業別売上構成比(2010年度)



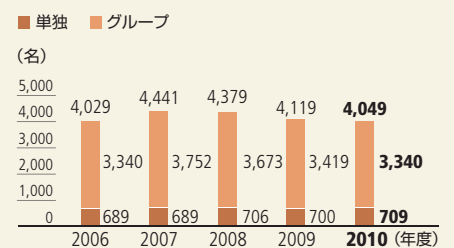
● 連結売上高



● 連結利益



● 従業員数



「環境報告書2011」の編集にあたって

本報告書は、ニッケグループの環境・社会活動について、2010年度の取り組みと実績、今後の計画を報告するものです。報告書の発行は本年度で7回目となり、環境パフォーマンスデータについては国内の衣料繊維製造部門・資材製造部門とショッピングセンター部門について報告しています。2010年版の報告書から特筆すべきトピックスを載せた特集ページを設けています。冊子はダイジェスト版とし当社のホームページに詳細版を掲載しています。

URL : <http://www.nikke.co.jp/csr/ecology.html>

報告対象組織

■ 環境パフォーマンスデータ

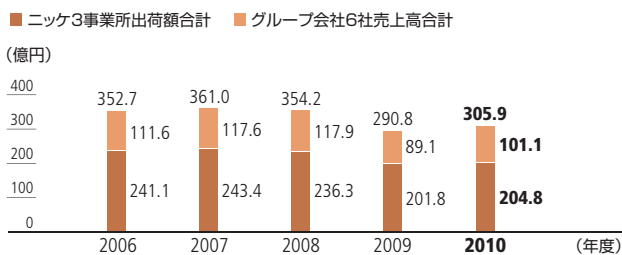
日本毛織株式会社
 製造事業所3カ所：印南工場、一宮事業所、岐阜工場
 オフィス8カ所：本社、神戸本店、東京支社、北海道営業所、仙台営業所、名古屋営業所、広島営業所、九州営業所
 ショッピングセンター2カ所：ニッケコルトンプラザ、ニッケパークタウン

国内グループ会社(6社)

尾州ウール株式会社、日誠毛織株式会社、大成毛織株式会社、金屋ニット株式会社、アンビック株式会社、株式会社ゴーセン

連結対象組織における報告対象組織の補捉率は約60%です。これは国内エネルギーデータをもとに、事業規模から推測したのですが、補捉率の精度向上のため、今後、より広い範囲でエネルギーデータの収集に努めます。

● パフォーマンスデータにおける金額原単位の指標



■ 環境マネジメントおよび環境保全活動の取り組み

ニッケグループとしての取り組みおよび各社の活動を報告しました。

■ 社会的取り組み・マネジメント

ニッケグループとしての取り組みを報告しました。

報告対象期間

2010年度(2009年12月1日～2010年11月30日)

期間中に発生した重要な変化

衣料繊維事業のグローバルな視点からの生産体制の効率化と物流の合理化を目的として、2010年度は、損斐ウール(株)を閉鎖し、尾州ウール(株)と合併しました。株主構成、商品・サービスなどの重要な変化はありません。

発行日、前回発行日、次回発行予定

発行日：2011年2月24日

前回発行日：2010年2月25日 次回発行予定：2012年2月

準拠したガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン」(2007年版)

作成部署・連絡先

ニッケ 研究開発センター 環境・知財管理室
 大阪市中央区瓦町三丁目3番10号
 Tel.06-6205-6658 Fax.06-6205-6653

主な企業情報

企業情報 会社案内、有価証券報告書、
 ニッケレポート(事業報告書)、IR資料、環境報告書
 お問い合わせ先 ニッケ 第2経営戦略センター 法務IR広報室
 Tel.06-6205-6600 Fax.06-6205-6684
 E-mail : webmaster@nikke.co.jp

企業情報に関するご意見・ご質問は、連絡先をお聞きした上で関係部署から返答いたします。(返答は後日になる場合もあります)

【免責事項】本報告書には、ニッケおよびニッケグループの将来に関する予測・予想・計画も記載しています。これらは記述した時点で入手できた情報に基づいたものであり、将来の事業活動の結果とは異なったものになる可能性があります。

Contents

トップメッセージ	3
マネジメント	4

“人と地球に「やさしく、あったかい」企業グループ”となるために

特集 1	製造工程や営業時間に合わせてさまざまな手法で、消費エネルギーと廃棄物、環境リスクを低減しています	5
特集 2	ニッケグループは人財教育を強化し、企業価値を高めていきます	7

環境への取り組み	
環境経営	9
国内繊維事業における環境保全活動	12
ショッピングセンター事業における環境保全活動	22
社会への取り組み	
お客様とともに	23
地域社会とともに	25
従業員とともに	26
取引先様、株主様とともに	28
ニッケグループ各社の取り組み	29

かけがえのない地球を守るため、
環境保全活動に取り組み、
信頼される企業をめざして



**人と地球に「やさしく、あったかい」
企業グループとして**

「21世紀は環境の世紀」と言われ、持続可能な発展を考えると、地球温暖化の防止・循環型社会の構築・生物多様性の保全など環境保全は重要な活動となっています。かけがえのない地球環境を健全な状態で次世代に引き継ぐことは、私たちに課せられた使命であり、責任であると考えています。

そのため、地球環境保全を企業経営における最優先課題と位置づけ、経営理念にも「人と地球にやさしく、あったかい企業グループ」と掲げ、環境保全活動に取り組んでいます。1993年に「地球環境委員会」を設置して本格的な活動を開始し、2009年には衣料繊維・資材・エンジニアリング・開発・コミュニティサービス・生活流通の6事業に再編され多様化した組織に対応するため、「ニッケグループ地球環境委員会」と改編しました。現在、省エネルギー・CO₂排出量の削減・廃棄物最終処分量の削減など5項目の数値目標を掲げてグループ全体で地球環境の保全に取り組んでいます。

ステークホルダーからの信頼を得るために

企業が持続的に成長・発展するためには、お客様・株主様・取引先様・社会といったステークホルダーの皆様からの信頼を得ることが不可欠です。その信頼の基盤は、ステークホルダーの皆様に対して「誠実な経営」であることと、コンプライアンス（法令遵守）のレベルを超えて「倫理的に行動すること」であると考えています。

ニッケグループでは企業倫理の確立を図ると同時に、内部統制・リスク管理・人財育成の強化と地域社会への貢献を通して、企業価値を高めていきたいと考えています。

本報告書は、2010年度に推進したニッケグループの環境への取り組みと社会的責任への取り組みについてまとめたものです。本報告書をご覧いただき、ニッケグループの取り組みを理解していただくとともに、皆様からご意見・ご指摘をいただければ幸いです。

2011年2月

ニッケグループ代表
取締役社長

佐藤光由

<p>経営理念</p>	<p>“人と地球に「やさしく、あったかい」企業グループとして、わたしたちは情熱と誇りをもってチャレンジして行きます。”</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ウールで培った技術の追求と環境への配慮により、新しい価値を創造します。 ■ 心を込めて人間家族や地域社会に貢献し、たしかな生活文化を創造します。
<p>経営方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 社員の幸せを追求し、希望と生きがいの持てる企業グループを目指します。 ■ 企業価値の最大化を通して、顧客や株主との持続的な信頼関係を築きます。 ■ 研究開発を強化し、品質と感性・革新性に根ざしたNo.1の商品とサービスを提供します。 ■ 変化をチャンスと捉え、既存事業の改革と新規事業の開拓に挑戦します。 ■ 人材開発を重視し、各分野におけるプロフェッショナルとして行動します。

コーポレート・ガバナンス

ニッケは、経営の効率化、透明性を向上させ、ステークホルダーの期待に応えながら企業価値の増大を図ることをコーポレート・ガバナンスの基本方針としています。

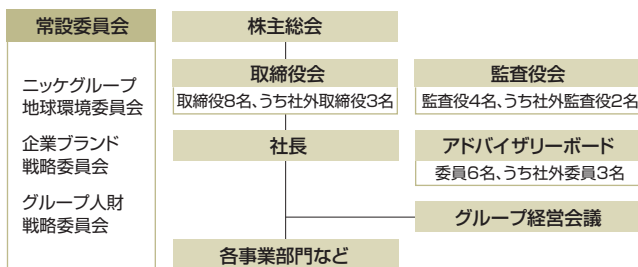
コーポレート・ガバナンス体制

ニッケは、取締役会および監査役会で業務執行を監督・監査する「監査役設置会社」として、「経営監視の仕組み」と「最適な経営者を選定する仕組み」の構築に努めています。

2004年にはアドバイザリーボード(社外有識者の会議体)を設置し、経営者の指名・報酬に関わる業務の確立と、ボードメンバーによる経営の監視およびアドバイスを取り入れる仕組みを導入しました。

また2006年には執行役員制度を導入し、経営の意思決定・

● コーポレート・ガバナンス体制



監督機能と業務執行機能の分担を明確にし、業務執行機能の強化を図りました。そして取締役会をスリム化し、社外取締役を加えて透明性のある経営を推進しています。さらに、業務執行機能の強化を図るために、執行役員、常勤監査役、各事業部門長およびグループ本社部門長などから構成されたグループ経営会議を開催しています。

内部統制システムの構築

金融商品取引法が改正され「信頼ある財務報告作成」のために内部統制報告制度が実施されてから2年間が経過しました。

2010年度は「重要な事業拠点」として、ニッケ(株)ナカヒロ・アカツキ商事(株)・(株)ゴーセン・アンビック(株)に加えて佐藤産業(株)が対象となりました。上記6社を含む全グループ会社が真摯に取り組み、監査法人から「内部統制報告書は、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。」との監査報告書を受領しました。今後とも内部統制システムの継続的な改善に努めます。

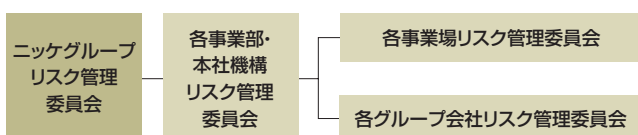
コンプライアンス・リスク管理

「ニッケグループリスク管理委員会」を中心に、ニッケグループの倫理・法令の徹底・遵守をはじめとして企業を取り巻くあらゆるリスクに対応しています。

コンプライアンス・リスク管理体制

ニッケグループは、2004年に「ニッケグループ企業倫理委員会」を設置しました。「企業倫理規範」と「企業行動基準」を制定するとともに、これらを記載した「企業倫理ハンドブック」を全社員に配布して徹底を図っています。2008年12月には「ニッケグループリスク管理委員会」に改組して、ニッケグループを取り巻くリスクを「戦略リスク」「財務リスク」「オペレーショナルリスク」「ハザードリスク」に分類し、リスク管理上必要な重点テーマを設定して活動しています。

● ニッケグループリスク管理委員会体制



2009年度には金融商品取引法に基づく「財務報告に関する行動基準」の改訂を実施し、2010年度も継続して内部統制監査と法令遵守監査を実施しました。

2010年度においても、報告すべき大きな法令違反や企業倫理問題は発生していません。

公益通報者の保護

ニッケグループでは、「企業倫理規範」に関わる事柄で、職場内だけでは解決が難しい場合や、上司に相談することが必ずしも適切でない事項について、社員が相談できる窓口を「企業倫理ハンドブック」・社内イントラネットなどで周知しています。

窓口は2つのルートを設け、相談者のプライバシーを厳重に守る体制としています。2010年度の利用は人間関係問題を中心として7件ありましたが、ほぼ円満に解決しています。

“人と地球に「やさしく、あったかい」企業グループ”となるために

特集

1

製造工程や営業時間に合わせて さまざまな手法で、消費エネルギーと 廃棄物、環境リスクを低減しています

国内に製造事業所3カ所とショッピングセンター2カ所を展開するニッケ。
その事業活動における環境負荷を可能な限り低減するために、
事業所の特性に応じた環境保全活動に積極的かつ継続的に取り組んでいます。



製造事業所で 工程ごとの特性に合わせて 省エネ活動やリサイクルを展開

ニッケの製造事業所では、染色や洗浄・乾燥などさまざまな
工程で熱エネルギーを利用し、廃棄物や排水を発生させています。

これらの量を削減させるために、工程改善や設備の更新な
どの対策を通じてエネルギーロスの低減やリサイクルの徹底
を図ることで、地球に「やさしく、あったかい」企業グループと
なることをめざしています。



印南工場

排水貯槽のステンレス化によって 土壌汚染リスクを低減しました

印南工場では工程排水を社内処理して河川に放流してい
ます。排水を安定的に処理するには、排水処理装置への流入量を
一定に保つ必要があり、排水貯槽を設置して流入量を調節して
います。排水貯槽は半地下式のコンクリート製で、定期的に点検
し、底部や側面から漏水がないことを確認していましたが、万が
一破損した場合は、土壌汚染を引き起こすリスクがありました。

そこで、土壌汚染回避の予防処置として、コンクリート製の
貯槽に代えてステンレス製の貯槽を新設しました。この貯槽
は腐食の恐れがなく、また地上設置することで多くの社員の
目で常時監視することが可能となり、土壌汚染リスクを十分に
低減することができるようになりました。



印南工場
施設課原動係長
島津 剛

ステンレス製の排水貯槽を新設

一宮事業所

熱水からのエネルギーロスを低減する 保温カバーを設置しました

繊維に付着した不純物を除去する精練工程では、多くの
熱水を使用しています。そこで、省エネ対策として熱水を使用
する機台の保温改造に取り組みました。改造前の機台はオー
プンタイプであったため、液面から熱エネルギーが外へ放出
され、エネルギーロスを発生させていました。保温改造工事
では、オープンタイプの機台にカバーを設置することで、熱
エネルギーを外へ放出させないようにし、昇温時間の短縮や
運転中のエネルギーロスの低減を図りました。

この保温カバーを取り付けた結果、年間で約750トンの
蒸気の削減(CO₂に換算すると100トンの削減)につなが
ると予測しています。



一宮事業所
整理課長
米本 鏡一郎



機台に保温カバーを設置



ショッピングセンターで

LED照明の導入や自然エネルギーの利用を積極的に推進

ニッケは国内2カ所で大規模なショッピングセンターを運営しています。多くのお客様が来場するショッピングセンターは、憩いの場を提供するだけでなく、環境にも十分配慮し、なおかつお客様に環境保全の大切さをご理解いただく工夫も必要です。

省エネで長期間営業を可能にする照明・発電設備の導入などを通じ、豊かな生活への貢献をめざしています。

ニッケコルトンプラザ

太陽光と風力、LED照明を利用したハイブリッドシステムを導入しました

ニッケコルトンプラザでは、省エネ型照明LEDと自然エネルギーを利用するハイブリッドシステムを導入しました。

アウトモールの西口からコルトン広場に向かう中間点に装飾されたゲートに設置されている照明をLED照明に交換しました。また、自然エネルギーを利用するため、ゲートの梁部両端に太陽光パネル2枚と中央に風車1基、柱に蓄電池と制御盤を設置。発電された電気を蓄電池に充電し、夜間はこの電気を使ってLED照明を点灯します。

さらに、このシステムをお客様にもご理解いただくために、発電力と積算発電量、CO₂削減量をリアルタイムに表示する装置を柱に設置しています。



太陽光パネルと風車を設置



ニッケコルトンプラザ
施設担当
原田 玄

ニッケパークタウン

駐車場外灯を水銀灯からLED照明に交換します

ニッケパークタウンでは、リバーサイドゾーン駐車場の外灯を水銀灯からLED照明に変更する計画をしています。2010年12月に24時間営業のテナントが開店したことで、駐車場の開場時間とともに外灯の点灯時間が長くなりました。そこで、試験的に1灯だけをLED照明に交換し、電力計をつけて消費電力の変化の統計を取った結果、LED照明の電力使用量は水銀灯の1/10以下になることがわかりました。

2011年度には、リバーサイドゾーンの21灯すべての外灯をLED照明に交換し、年間で約4万8,000kWhの電力の削減を見込んでいます。



ニッケパークタウン
施設担当
大岡 勝美



LED照明の外灯へ変更

岐阜工場

排水処理汚泥をはじめとする廃棄物のリサイクル率向上と建物の美化に取り組んでいます

岐阜工場では、排水処理装置から発生する汚泥を固化し、セメントの一部原料としてリサイクルしており、汚泥の水分率を低下させることで汚泥の排出量の削減に努めています。また、リサイクル率向上のため、各職場から発生した廃棄物の分別回収を徹底しており、2010年度のリサイクル率は99.2%でした。環境整備専門委員会において、廃棄物が正しく分別されているかを定期的に確認し、各職場への分別指導を実施しています。

さらに、工場建物の維持の面から、3年計画で窓サッシの更新、建物の塗装を推進し、工場の美化に取り組んでいます。



排水処理汚泥をリサイクル



岐阜工場 施設課長
吉村 朝生



特集

2

ニッケグループは人財教育を強化し、 企業価値を高めていきます

ニッケグループ中長期ビジョン(NN120ビジョン)を実現するための
施策の一つとして、「人財教育の強化」を掲げており、
その一環として階層別教育を実施しています。



教育の目的

ニッケグループの社員を対象に、次の2つを目的として人財教育を実施しています。

1. 各階層に求める役割認識を促し、役割を果たすための職務遂行能力を高める支援をする。
2. ニッケグループの総合力向上とグループ意識の醸成を促す。

中長期経営ビジョン
(NN120ビジョン)の実現

人財理念

社員の使命は、仕事を通じて
自ら学び自ら成長することです。
会社の使命は、
成長しようと努力する
社員に対して支援することです。

人財ビジョンの 実現

社員
チャレンジ精神、高い認識力、倫理観に富む、真面目で誠実
リーダー
ビジョンを示す、説明責任を果たす、成長を促進させる

コンセプト

「人が育つ会社」
社員一人ひとりが自らの役割りを認識し、仕事の中で成長する

現状

部長層

経営センスアップトレーニング

事業部全体のビジョンを検討した上で、自部門の位置づけと
役割を踏まえ、自部門のビジョンを描き、守り・攻めのバランスを
考えた戦略を構築し、事業計画を策定するトレーニングです。

研修と自主的な会合を月1回開き、半年間にわたって事業
グループごとに検討を重ね、最終会合では事業部長に対する
プレゼンテーションを実施します。



経営センスアップトレーニング

事業部各社の代表が集まり、シナジーや新規事業 の創出を考える貴重な機会になりました

異業界企業の集合体である生活流通事業部全体に目を
向け、会社間のシナジーや事業部共有の成長課題を考察する
ことはあまりありませんでしたので、今回の研修で各社の代表
が集まり頭を悩ませたことはとても有意義でした。

終盤になると新事業の創出に向けたいくつかの可能性や
アイデアが生まれてきて、単なる異業界の集まりから“ぶどうの
房”のようにつながりあい、新たな実を实らせていく複合体に
変身できることも学びました。このようにニッケグループ
各社がグループ間のシナジーや新基軸となる事業創出に
ついて考えあう機会を持つことは、グループ全体に多くの
実を实らせることができると実感しました。



生活流通事業部 双洋貿易株式会社
石村 彰英



製造と販売、それぞれの立場による思考の違いと相互信頼の重要性がよく理解できました

異業種と同じ階層のメンバーで研修を受けることで刺激を受け、自分自身を見直すきっかけになりました。また製造現場一筋の私と、長年販売一筋でやってこられた方々との“基本思考の差”というものを実感しました。

販売と製造、それぞれの思考を討議し、相互信頼を高めていかない限り、会社の成長はないでしょう。当社の行動指針にある「作る人は売る人、売る人は作る人」の実践の重要性がよく理解できました。まだ研修は半ばですが、学んだ知識を自分なりに昇華し、応用できるよう努力していきます。

資材事業本部
アンビック株式会社 生産一部
首藤 仁和



課長層

ニッケ・マネジメントスクール

管理職としての役割を果たすために身につけるべき「マネジメント」と「人財育成」の基礎能力を高め、統合したマネジメントスキルを発揮するための研修です。

「労務管理」「目標管理」「人事考課」「財務会計」「部下育成」「意思決定」「論理的思考テクニック」「職場運営のデザイン」「リーダーシップ」の9つのプログラムを用意しています。



ニッケ・マネジメントスクール

リーダー層・中堅層

発見型問題解決研修

自身を取り巻く職場環境を俯瞰的にとらえた上で、手を打たなければならない問題を発見する手法と、問題の裏側に潜む根本原因を究明する手法を習得する研修です。

すべてのステークホルダーが満足できる協調的な問題解決のプロセスを、体験を通じて学習します。



発見型問題解決研修

衣料繊維事業本部
ニッケ 製造部業務課
早川 昌宏



他部門への理解とニッケグループとしての連帯感が深まりました

複数人による論理的な検証が創造的な解決に結びつくのを目の当たりにし、「グループの力」を実感するとともに、自分自身が周囲を巻き込み、主体的に問題解決すべき立場であるということを改めて認識しました。また、実務での関わりが薄い職場の方々とのワークを通して、ニッケグループの一員としての連帯感が深まりました。

衣料繊維事業本部
ニッケ 企画開発部
岩永 理絵



問題解決の鍵となるのは“人”とのコミュニケーションであることを実感しました

今回の研修で感じたのは“人”の重要さでした。皆で意見を出しあう、人の意見を否定しない、皆で意見をまとめあげる——すべてが“人”とのコミュニケーションの上に成り立っています。

今回、グループ会社の方とふれあえたことで、仕事に打ち込む姿勢・考え方などを肌で感じる事ができ、とてもよい刺激になりました。

環境への取り組み

豊かな地球環境を次世代に引き継ぐために、地球環境保全を企業経営における優先課題と位置づけています。



環境経営 9



国内繊維事業
における
環境保全活動 12



ショッピングセンター
事業における
環境保全活動 22



環境への取り組み 環境経営

ニッケグループ環境基本理念

“人と地球に「やさしく、あったかい」企業グループとして、わたしたちは情熱と誇りをもってチャレンジして行きます。”

ニッケグループは、この経営理念のもと、「環境への配慮と高い企業倫理により社会から信頼される企業グループを指向すること」を環境基本方針としています。とりわけ地球環境の保全を重要な課題と捉え、豊かで住みよい社会の実現に向けた企業活動に努めるため、3つの行動方針と4つの重点施策を定めています。そして、研究開発から製造・技術・販売・流通・サービスに至るあらゆる分野において、グループ全従業員が積極的に環境保全活動に取り組んでいきます。

行動方針

■ 環境保全活動の推進

CO₂排出量削減、省資源、環境負荷の低減にグループ全従業員で取り組みます。

■ 環境マネジメントシステムの確立

ISO14001の認証を製造事業所3カ所およびグループ会社8社が取得しています。この環境マネジメントシステムを活用することで、継続可能な環境改善に努めます。

■ 環境規制の遵守

環境関連法規および環境保全協定などを遵守するとともに、排出基準に自主規制値を設定し、厳しい規制管理を図ります。

重点施策

- 環境配慮に対するグループ内の意識徹底
- CO₂排出量削減、省エネルギー、省資源、廃棄物3Rの推進、グリーン購入への取り組み
- 環境問題に対応した素材と生産技術の開発
- 環境関連情報の公開および地域社会との共生



環境マネジメント

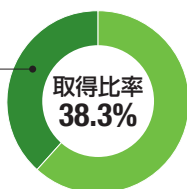
「ニッケグループ地球環境委員会」のもと、「PDCAサイクル」を重視した環境マネジメントシステムの継続的な運用によって、環境保全活動を推進しています。

ISO14001 認証取得状況

ニッケグループでは、製造事業所3カ所およびグループ会社8社で、環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001認証を取得しています。

● ISO14001 認証取得事業所従業員の割合

認証取得従業員数：1,552名※
グループ従業員数：4,049名※
※非連結グループ会社を含む



環境会計

環境会計を導入し、環境保全の取り組みの把握に努めています。環境対策投資とは公害防止設備や省エネ設備への投資であり、公害防止コストは公害防止設備の維持費や各種分析費など公害防止ランニングコストのことです。

今後は経済効果なども集計することで、効果的・効率的な環境経営の推進に役立てたいと考えています。

● 環境会計データ

(千円)

	2006	2007	2008	2009	2010
環境対策投資額	293,822	91,223	149,392	155,354	191,123
公害防止コスト	173,552	211,863	199,822	173,492	168,843
汚染負荷量賦課金	5,719	5,316	4,980	4,718	3,833

環境影響の監視・測定

ニッケの3事業所では、ボイラや排水処理設備など環境に影響を及ぼす設備について、環境測定機器の定期校正、ボイラ排ガスの測定、排水の分析などの日常点検および定期点検を実施しています。また、所在する地域の排水水質規制を上まわる自主規制値を設定し、厳しく管理しています。

各事業所では、敷地の境界で騒音などを定期的に測定し、騒音が心配される場合は吸音材や遮音材を貼り付け、周辺の生活環境の保全に努めています。

環境監査と結果

ISO14001 認証取得事業所では、年1回外部監査機関による審査を受けています。2010年度はニッケ3事業所合計で不適合0件、観察事項15件の指摘がありましたが、全体的には良好との評価を受けています。またニッケの3事業所で合計75名の内部監査員がおり、年1回、定期的に内部監査を実施しています。2010年度は不適合7件、観察事項38件が報告されました。

これら監査の結果については、マネジメントレビューで対策内容を確認・決定して、マニュアルや規定書を改訂する場合があります。

環境教育

全社員を対象として毎年、環境教育を実施しています。

たとえばニッケの3事業所では環境方針の周知を図るとともに、環境マニュアルや環境に関する作業標準の教育などを実施しています。この環境教育は、各作業が有する著しい環境への影響、それを改善した場合の環境上の利点、環境マネジメントシステムの運用にあたっての役割と責任、作業標準から逸脱した場合に予想される結果などを啓蒙する機会にもなっています。

環境コミュニケーション

ニッケ印南工場では、地域の皆様との相互理解を深めるために、毎年2回、地域連絡会を開催しています。この連絡会には周辺6町内会の代表者にお越しいただき、工場や会社の状況を報告するとともにご要望を伺うほか、工場内を見学していただく場合もあります。

また、兵庫県、加古川市とニッケ印南工場間で環境保全協定を締結しています。加古川市内の8社の企業も同様に協定を締結しており、毎年1回、企業の事業所周辺住民の代表の方などを交えて協議会を開催し、事業所ごとに環境情報を報告しています。



地域連絡会(印南工場)



環境への取り組み 環境経営

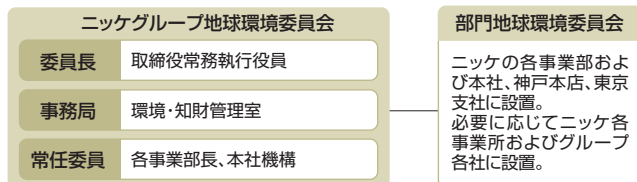
環境マネジメント

環境マネジメントシステム

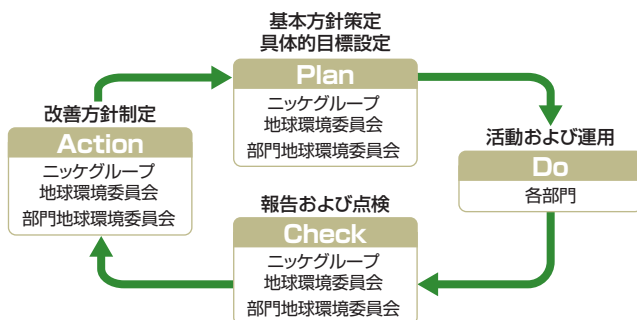
ニッケグループでは、グループ各社が同じ目標のもとで、環境保全活動に取り組む体制を構築しています。「ニッケグループ地球環境委員会」を設けて基本方針と施策を決定するとともに、各事業部・本社・神戸本店・東京支社などに設置した部門地球環境委員会で具体的な計画を立案して実行する体制としています。

環境保全活動の推進にあたっては、下図のように“PDCAサイクル”を繰り返すことで活動の定着と強化を図っています。

● 環境マネジメント体制



● 環境保全活動推進フロー



ISO14001 認証取得状況(詳細)

ニッケグループでは、環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001認証を、以下の事業所とグループ会社で取得しています。

2010年度にISO14001を認証取得したグループ会社はありません。

● ISO14001 認証取得事業所一覧

	登録年月	登録番号
印南工場	2000年11月	JMAQA-E156
アカツキ商事株式会社	2001年9月	JSAE419
岐阜工場	2001年10月	JMAQA-E234
アンビック株式会社	2001年11月	JQA-EM1898
佐藤産業株式会社	2001年11月	JEO129D
株式会社ナカヒロ	2002年6月	E465
上海高織製紐有限公司	2004年3月	01 104 031654
株式会社ニッケ機械製作所	2004年11月	1664297
株式会社ゴーセン	2005年4月	JQA-EM4701
一宮事業所	2007年12月	JMAQA-E72 4



環境リスク管理体制の整備

ニッケでは、環境マネジメントシステムに基づき、環境に関する緊急事態として、汚水の流出、薬品・油剤の流出、PCBの流出、毒劇物の盗難、火災の発生、都市ガスの漏れなどを想定しており、事業所ごとにリスクを規定しています。

緊急時の対応手順は作業標準などに規定し、社員に徹底するとともに、定期的な訓練を実施しています。



PCB漏洩訓練(一宮事業所)



廃油漏洩訓練(印南工場)

環境に関する規制の遵守状況

2010年度においても、環境に関して官公庁から指導および罰則を受けておりません。なお、過去3年間も同様に違反、罰則、訴訟はありません。

● 環境保全活動のあゆみ

1993	・「地球環境委員会」を設置
1997	・ビジネスユニフォームでの「エコマーク」第1号取得 ・PETボトルリサイクル繊維を使用した「エコロジア企画」商品を発売開始
1998	・ウールリサイクルシステム「エコネットワーク」を構築
1999	・「環境自主行動計画」を策定 ・「地球環境保全中期計画」を策定開始
2000	・印南工場でISO14001を認証取得
2001	・岐阜工場でISO14001を認証取得 ・アンビック(株)でISO14001を認証取得 ・アカツキ商事(株)でISO14001を認証取得 ・佐藤産業(株)でISO14001を認証取得
2002	・(株)ナカヒロでISO14001を認証取得
2004	・(株)ニッケ機械製作所でISO14001認証取得 ・上海高織製紐有限公司でISO14001を認証取得
2005	・環境報告書発行開始 ・(株)テクシオ ^{※1} でISO14001を認証取得 ^{※1} 新会社、(株)ニッケテクノシステムに変わりましたが、まだISO14001を認証取得していません。 ・(株)ゴーセンでISO14001を認証取得
2007	・一宮事業所でISO14001を認証取得
2008	・青島日毛紡織有限公司 ^{※2} でISO14001を認証取得 ^{※2} 2010年8月に操業停止しました。



環境保全中期計画

ニッケグループは2008年12月に策定した「環境保全中期計画(2009~2011年度)」の達成に向けて全社が一丸となって各種施策に取り組んでいます。

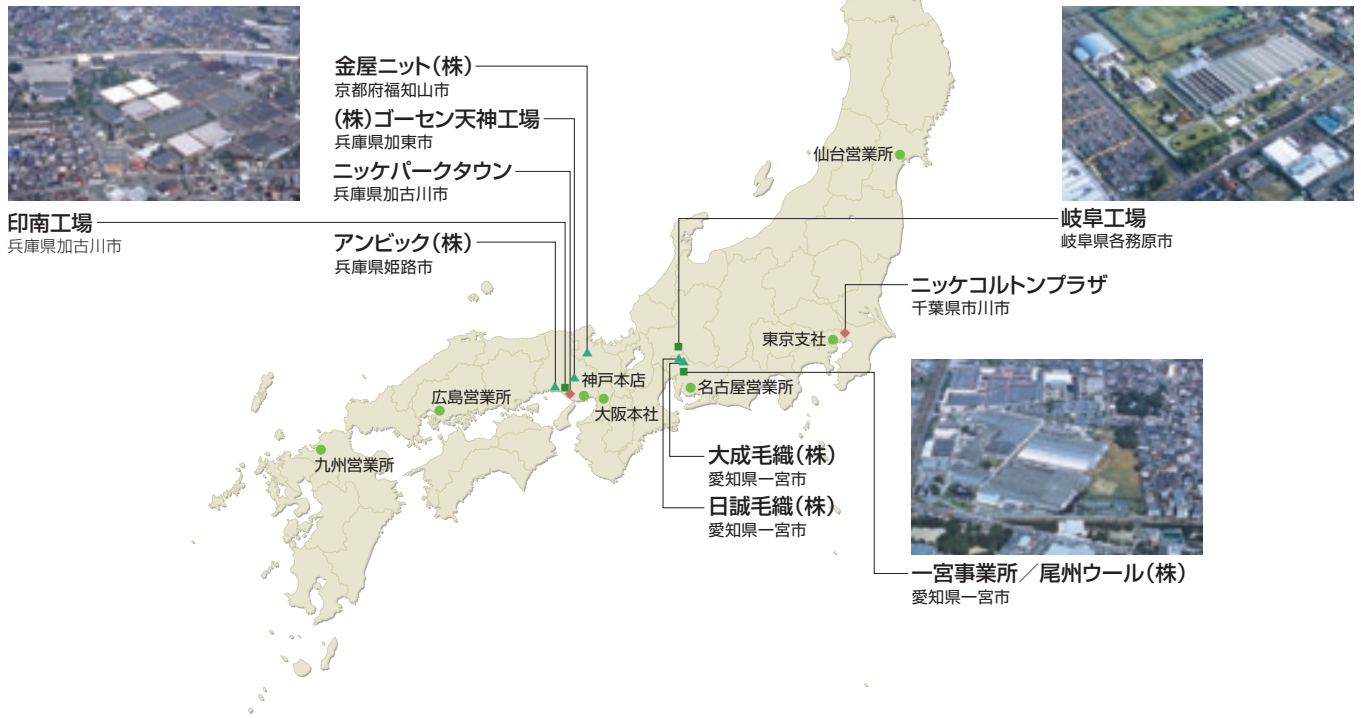
● 2010年度の目標と実績

目的	内容	2010年度の目標	2010年度の実績	自己評価	中期計画の目標(2011年度)	報告ページ
省エネルギー	工場出荷額当たり原単位 2008年度比	98.0%以下	92.2%		97.0%以下	▶ P.15-16
CO ₂ 排出量の削減	工場出荷額当たり原単位 2008年度比	98.0%以下	90.3%		97.0%以下	▶ P.15-16
廃棄物最終処分量の削減	工場出荷額当たり原単位 2008年度比	98.0%以下	74.6%		97.0%以下	▶ P.15-16
PRTR法対象物質 使用量の削減 ※ 右記の年度は、行政への報告 集計期間(4月~翌年3月)に対応	工場出荷額当たり原単位 2007年度比	98.0%以下	65.4%		97.0%以下	▶ P.17-18
グリーン購入の促進 ※ 製造事業所3カ所および 本社・東京支社での取り組み	グリーン購入適合品比率	95.0%以上	92.8%	×	毎年度 95.0%以上	▶ P.14

自己評価の基準 目標を十分に上まわって達成した 目標を達成した 目標は達成できなかったが目標に近づいた 目標に向けた改善ができなかった

報告対象事業所

国内繊維事業：■ 製造事業所3カ所 ● オフィス8カ所 ▲ 国内グループ会社(6社)
ショッピングセンター事業：◆ ショッピングセンター2カ所





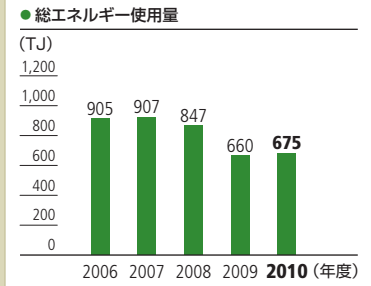
環境負荷の全体像

原材料やエネルギーなどの投入(インプット)、CO₂や廃棄物などの排出(アウトプット)を把握し、可能な限り環境負荷を低減するように努めています。

INPUT

エネルギー

電気..... 39,521MWh
都市ガス..... 6,454千m³
A重油..... 118kL



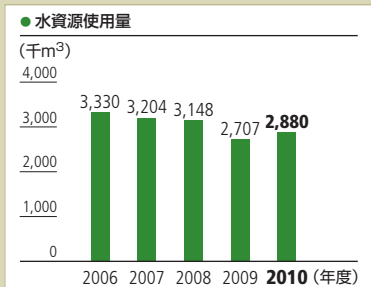
原材料

羊毛..... 3,188t
合成繊維..... 3,793t
染料・薬剤..... 1,923t



水資源

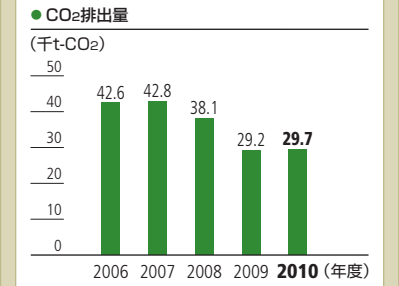
上水..... 59.9千m³
工業用水..... 501千m³
地下水..... 2,320千m³



OUTPUT

大気への排出

CO₂..... 29.7千t-CO₂
SO_x..... 0.30t
NO_x..... 4.73t
ばいじん..... 0.224t



リサイクルと廃棄

廃棄物発生量..... 1,650t
リサイクル量..... 1,332t
最終処分量..... 318t



水系への排出

排水..... 2,647千m³
COD..... 31.9t
BOD..... 11.9t
SS..... 12.6t



グリーン購入の取り組み

ニッケは1998年に「グリーン購入ネットワーク」に加入し、環境負荷の少ない商品やサービスを優先して購入するグリーン購入の取り組みを促進しています。

グリーン購入の促進

グリーン購入適合品比率は「95.0%以上」という目標に対して「92.8%」と目標未達でした。ペーパーレス化により、適合品比率の高い事務用紙の購入量が減少したことや省エネ型蛍光灯への切り替えが概ね完了し、グリーン購入対象品の購入が減少したことが影響しています。

文具類の中には、グリーン購入に該当する物品が存在しないものがあり、適合品比率を上げることは難しい状況ですが、購買品、調達先の見直しにより適合品比率を改善していきます。

● グリーン購入比率 (%)

	2006	2007	2008	2009	2010
紙類	95	95	93	95	98
文具類	63	68	69	65	71
機器類	100	99	98	99	99
OA機器	100	99	100	100	100
照明 照明器具	100	100	100	100	100
照明 蛍光灯	71	100	98	92	99
合計	92	93	94	93	92.8

オフィスでの取り組み

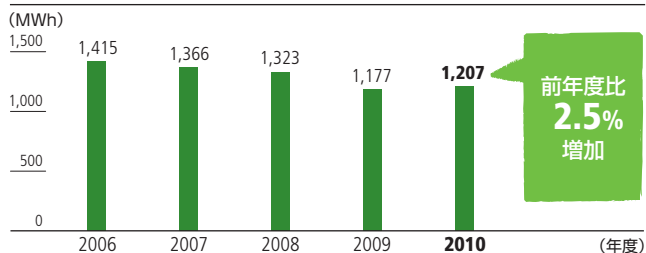
ニッケの本社、神戸本店、東京支社および北海道、仙台、名古屋、広島、九州の各営業所のオフィス部門での環境データを集計して報告しています。

オフィスにおける環境保全

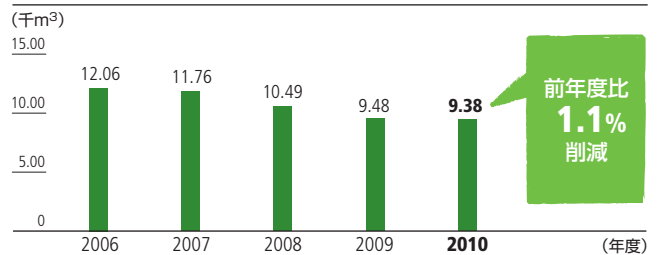
空調温度の夏季28℃、冬季20℃管理の徹底や、不要照明の消灯、昼休みの消灯を社員に周知徹底することで、電気使用量の削減に取り組んでいます。これらの取り組みに加えて、2010年度は、本社ビルで空調設備を2つのフロアで更新し、省エネを図りましたが、昨年夏の猛暑により電気使用量が2.5%増加しました。

今後も計画的に空調設備を更新し、省エネ対策を推進していきます。

● オフィスでの電気使用量

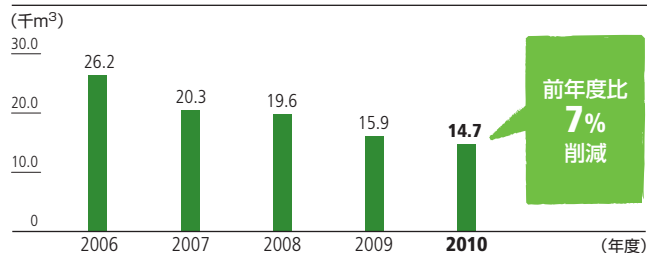


● オフィスでの水道使用量



水道使用について各個人に節水をPRし、水漏れ箇所についても迅速に修理対応することで、前年度比1%削減することができました。

● オフィスでのガス使用量



ガス使用量は、引き続き食堂部門での調理方法を工夫することで、前年度比7%削減することができました。



環境への取り組み

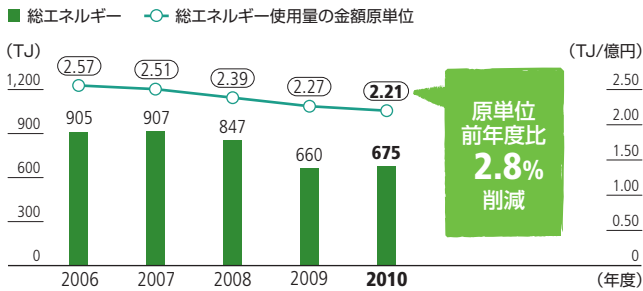
国内繊維事業における環境保全活動



地球温暖化防止の取り組み

省エネ型生産設備の活用などの諸施策を実行し、エネルギー原単位とCO₂排出量原単位の改善に取り組みました。今後は、省エネ型設備の積極的な導入や工程管理条件の見直しなどに取り組んでいきます。

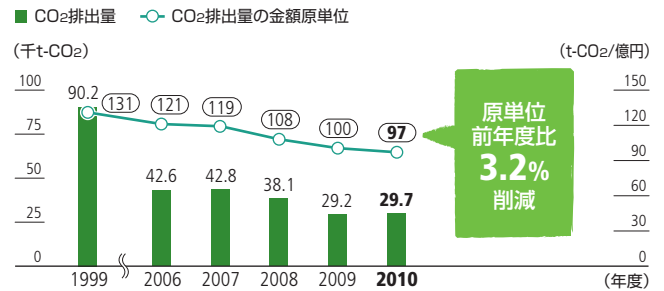
● 総エネルギー使用量と原単位



総エネルギー使用量原単位は「2008年度比98.0%以下」の目標に対して、実績は「92.2%」となり目標を達成しました。

省エネ機器の導入や生産設備の効率的な運転を推進したことに加え、保温カバーの取り付けや蒸気回収など無駄を省く取り組みを推進したことが主な要因です。

● CO₂排出量と原単位



CO₂排出量原単位は「2008年度比98.0%以下」の目標に対して、実績は「90.3%」と目標を達成しました。

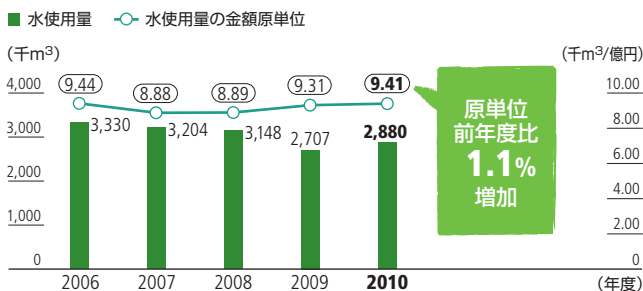
各製造事業所での省エネ対策により総エネルギー使用量原単位を減少することができたことが、CO₂排出量原単位減少の主な要因です。



省資源・リサイクルの取り組み

分別廃棄を徹底することで廃プラスチックのリサイクル化を推進しています。

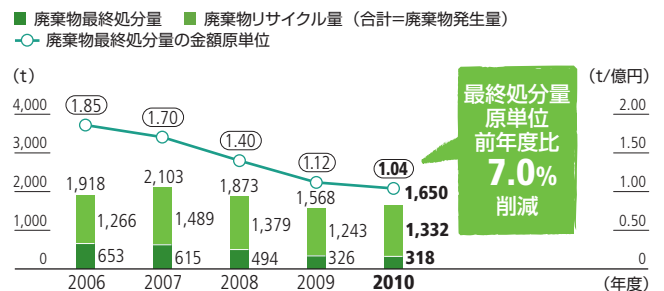
● 水資源使用量と原単位



使用する水資源には上水道・工業用水道・地下水があります。

節水や循環利用などによって水資源使用量の削減に努めましたが、昨年夏の猛暑により空調用水の使用量が増加し、原単位が1.1%増加しました。

● 廃棄物発生量・リサイクル量・最終処分量と原単位



最も多い廃棄物である脱水污泥の全量リサイクル化を完了し、最終処分量原単位は2008年度比74.6%と目標を大幅に達成できました。今後は、脱水污泥の発生量を抑制する仕組みの検討や、廃プラスチックなどのリサイクル率向上の取り組みを強化します。

地球温暖化防止の取り組み



省エネルギー活動の推進

2010年度は、各事業所で省エネルギー対策に取り組んだ結果、エネルギー原単位を2008年度比7.8%削減することができました。エネルギー使用量は2008年度比20%減少しています。

熱エネルギーを削減するために、洗浄工程での蒸気使用設備に保温カバーを取り付けることで、蒸気使用量を半減させました。また最新のボイラに更新することで、都市ガス使用量を削減できました。電気エネルギーについては空調機や照明器具を効率の高い機種へ更新、生産設備にはインバータを取り付けるなどして、効率のよい電気の使用に努めました。

また省エネ会議や省エネパトロールなど社員の省エネ意識を高めるための啓蒙活動も積極的に実施しました。

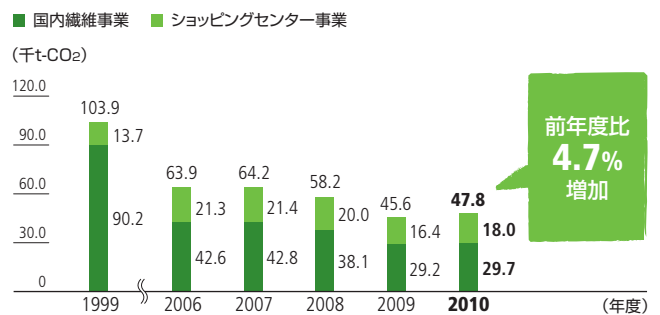
温室効果ガス排出量の削減

2010年度は、各事業所での省エネルギー対策により国内繊維事業のCO₂排出量原単位は2008年度比9.7%削減することができました。

CO₂排出量は、京都議定書に定める基準年1990年と比べて

国内繊維事業では67.0%減、ショッピングセンター事業を加えると54.0%減となりました。

● CO₂排出量(国内繊維事業とショッピングセンター事業の合計)



輸送でのCO₂排出量の削減

ニッケグループでは輸送効率を向上させる取り組みを推進しています。

2010年度は揖斐ウール(株)を閉鎖、尾州ウール(株)と統合することにより、出荷製品や原材料の輸送距離を短縮できました。また、できるだけ効率よく輸送することで、トラック便数を減らしました。

省資源・リサイクルの取り組み



総物質投入量の低減

繊維製造事業の主な原材料には、ウールを中心とした天然繊維、ポリエステルを中心とした合成繊維、染料・薬剤があります。

これら原材料の投入量を低減させるために、製造工程では歩留まりを高く維持することや不良率低減に継続的に取り組んでいます。

水資源使用量の削減(詳細)

2010年度の水資源使用量は2008年度比で8.5%減少しましたが、原単位は5.8%増加しました。これは、昨年夏の猛暑の影響により空調用水の使用量が増加したためです。

今後は空調用水および冷却水の循環利用をさらに向上させ、水資源使用量の削減に努めます。

物質の循環利用

製造過程で発生する篠くずや短い毛などの副産物を、紡毛原料としてほぼ100%再利用するシステムを確立しています。

また、セーターや手編み糸などを包装する包装材の使用量は年間7トン強で、これら容器包装材は日本容器包装リサイクル協会に委託して、リサイクル(再商品化)しています。

廃棄物の削減(詳細)

廃棄物最終処分量原単位は「2008年度比99.0%以下」の目標に対して、実績は「74.6%」と大幅に改善できました。廃棄物のおよそ半分を占める脱水汚泥の全量リサイクル化が完了し、次に多い廃プラスチックは、サーマルリサイクル(熱回収)や固形燃料化(ボイラ燃料)によりリサイクルを推進中です。

さらに廃棄物の分別を徹底することで、リサイクル率向上をめざしています。

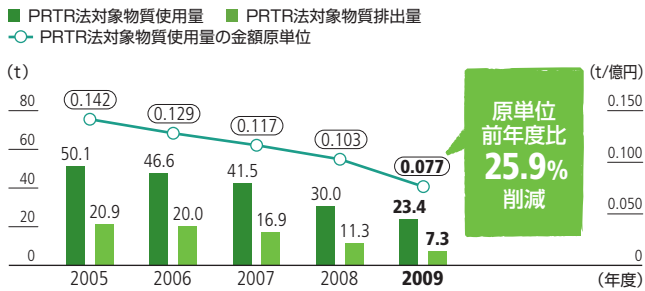


化学物質の削減と管理

PRTR法*対象物質の使用量が多い薬剤から対象物質を全く含有しない物質への切り替えをほぼ終了し、さらに少量使用している物質においても、試験を進めて切り替えていきます。

*PRTR法：特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律。

● PRTR法対象物質の使用量・排出量と使用量原単位



注) PRTR法の届け出については、事業者は個別事業所ごとに化学物質の排出量・移動量を把握し、繊維産業においては都道府県経由で経済産業省に届け出ています。その集計期間は4月から翌年3月までと定められており、上記グラフの年度も、この集計期間に準じているためニッケの報告期間とは異なります。

PRTR法対象物質を含有する化学物質の中で、比較的使用量が多いものから優先的に、PRTR法対象物質を全く含有しないものに切り替えました。その結果、目標を達成できました。

PCB使用廃電気機器の適正管理

ニッケグループでは、国の全額出資によって設立された特殊会社「日本環境安全事業株式会社」にグループ全体で35台のPCB使用廃電気機器を処理登録しており、現在、処理順番を待っている状況です。処理が実施されるまでは「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に従って、適正に保管しています。

また、数mg/kg～数十mg/kgのPCBが混入した微量PCB汚染廃電気機器の問題については、製造年などから混入の可能性のある機器を特定し、絶縁油のPCB分析により汚染の有無を確認する作業を行っています。汚染が確認された機器は計画的に更新し、微量PCB汚染廃電気機器として適正に保管・処分します。



PCB保管倉庫

大気や水などの汚染防止

大気汚染や水質汚濁などの公害対策については、特に周辺住民の方に迷惑をかけないように、確実に公害防止設備の定期保全を実施し、排ガスや水質の定期分析および管理を継続しています。

大気汚染物質の削減

SOx・NOx・ばいじんはボイラの排ガスに含まれるもので、特にSOxの排出はボイラ燃料に起因します。ニッケ印南工場、一宮事業所、岐阜工場とアンビック(株)、尾州ウール(株)は、天然ガスを燃料とするボイラを使用しており、SOx排出量をゼロにしています。

またNOx・ばいじんは「大気汚染防止法」や関係法規、環境保全協定に基づく排出基準を十分に下まわるよう管理しています。

排水の管理

工場排水に含まれるCOD負荷・BOD負荷・SS負荷は、自社の排水処理装置または公共の下水処理場でこれら負荷量を減少させた上で、河川などの公共水域に放流しています。

各工場では定期保全の確実な実施に加え、日常的な管理運用、上乘せ排水基準の設定、排水水質の定期分析などを通じて、「水質汚濁防止法」や関係法規、環境保全協定に基づく排出基準を下まわるように管理しています。

PRTR法対象物質の使用量削減(詳細)

PRTR法対象物質の使用量原単位は、「2008年度比97.0%以下」とした目標に対して、実績は「65.4%」と目標を大幅に達成しました。今後も、ニッケ3事業所では、PRTR法対象物質を含有する化学物質に対して、対象物質を全く含有しないものへの切り替えを進めていきます。

ダイオキシン類について

ニッケグループでは、ダイオキシン類対策特別措置法で定められた特定施設は設置していません。

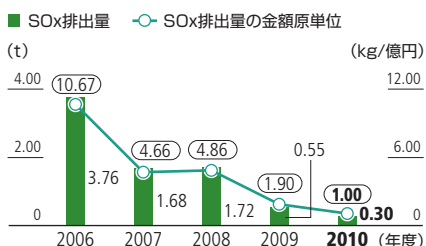
大気や水などの汚染防止

大気汚染物質の削減(データ)

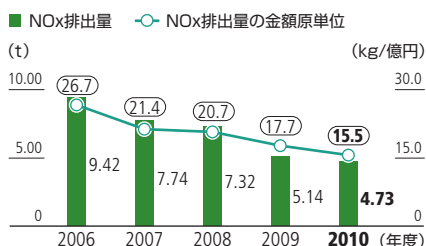
2010年度は、印南工場で7台、岐阜工場で1台のボイラを更新した結果、NOx排出量を前年度に比べて大幅に削減することができました。

一部のグループ会社ではボイラ燃料が重油であるため、今後、都市ガスへの転換を進めていきます。

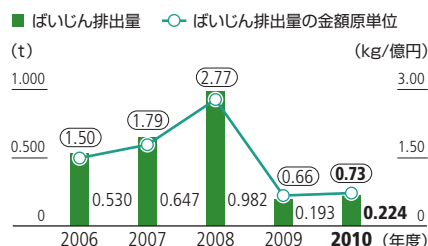
SOxの排出量と原単位



NOxの排出量と原単位



ばいじんの排出量と原単位

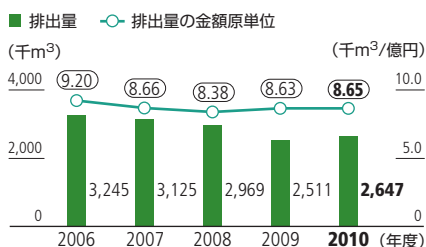


排水の管理(データ)

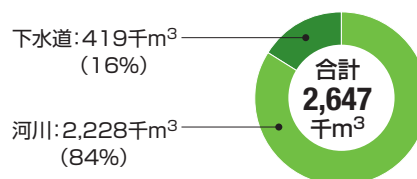
排水処理設備の適正管理により、COD、BODの負荷量、原単位とも大幅に減少しました。

SSについても負荷量、原単位とも、減少傾向です。

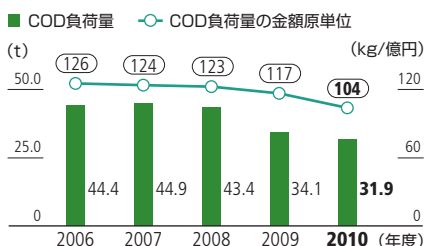
排出量と原単位



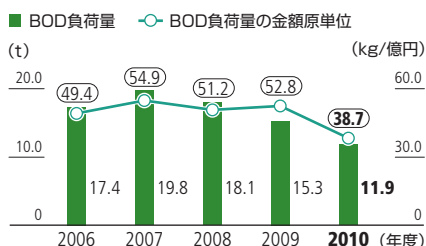
排水の排出先別内訳(2010年度)



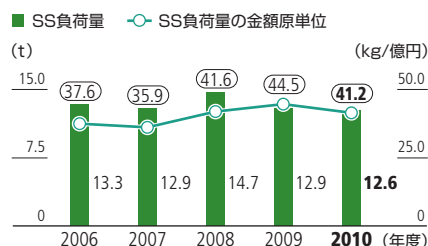
COD負荷量と原単位



BOD負荷量と原単位



SS負荷量と原単位





環境に配慮した商品

ニッケグループは、人と地球にやさしい素材であるウールを主原料としたさまざまな商品を製造・販売するほか、環境に配慮した素材の開発、再生繊維の製造、衣料品リサイクルの推進などに取り組んでいます。

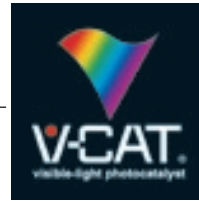
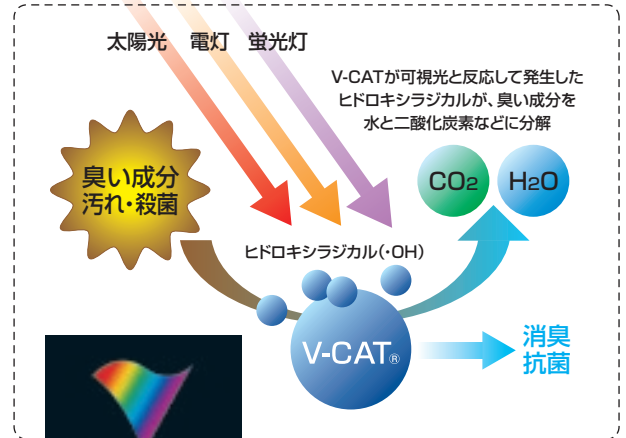
ニッケ



室内の光にも高い消臭・抗菌性能を発揮

「新・消臭抗菌素材」は、光の力で消臭・抗菌するきわめて衛生的な高機能ウール素材です。(株)豊田中央研究所が開発した、太陽光のみならず蛍光灯など室内の光にも高い消臭性能を発揮する「可視光応答型光触媒 V-CAT®」を採用。(株)豊田中央研究所との、ナノレベルで繊維と触媒とを結合させる技術の共同開発によって誕生しました。

この高機能素材は、2010年12月、中日新聞社が創設した「第24回中日産業技術賞」の「中日新聞社賞」を受賞しました。



V-CAT®とは…(株)豊田中央研究所が開発した、太陽光はもとより、室内の光にも高い消臭性能を発揮する「可視光応答型光触媒」

- オフィスや社内の可視光でも消臭効果を発揮します。
- 体内からの汗や脂質の臭い成分を分解、消臭します。
- ニッケ独自のナノ技術(nano miracle)の応用により、ウールのソフトな風合いはそのまま生きています。
- 抗菌作用もあり、清潔・快適な着用感です。
- ドライクリーニングでも優れた耐洗濯性があります。

ニッケ

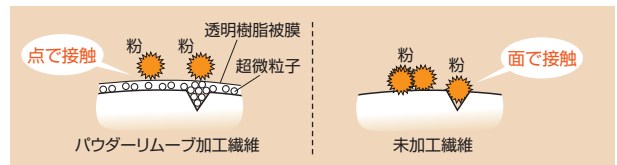


ファンデーションなどの付着を防止し、汚れにくい繊維

超微粒子(平均粒子径20ナノメートル)の付着防止剤が、繊維表面にナノレベルの滑らかな透明樹脂被膜を形成。この微粒子被膜は粘着性がなく平滑性に富んでおり、コスメティックのパウダー粉粒体が繊維に直接接しないため、付着しても軽く振り払うだけで簡単に払い落とせます。

さらに撥油性能を向上させたことで、油性成分のあるファンデーションなどにも効果があります。

- ① パウダーなどが繊維に直接接しないため、サッと払い落とせます。

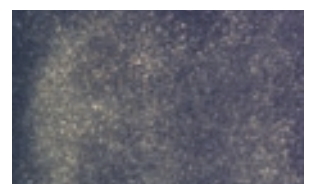


- ② この微粒子被膜は粘着性がないので、こまかいパウダーなども付着しにくい性質があります。

粉粒対リリース性試験(ニッケ法)：ファンデーションを同量散布しリリース(5回振る)後の比較写真



パウダーリムーブ加工繊維



未加工繊維

アンビック

ADMIREX™

焼却炉から排出される有毒な排ガス処理に貢献

アンビック(株)は、幅広い産業分野に資材用のフェルト・不織布を提供しています。アンビック(株)は、排ガス処理装置の一つであるバグフィルターの粉塵を捕集するろ布(フィルターバッグ)用フェルトを国内で初めて市場に送りだして以来、さまざまなニーズに応える商品開発・技術開発に取り組んできました。

「ADMIREX™」はダイオキシンの低減や、HCl(塩化水素)、SOxなどの有害ガスの排出量の削減を可能にするフィルターバッグです。都市ゴミや産業廃棄物といった焼却炉の集塵装置をはじめ、特に微粒子ダストの多いガス化溶融炉や灰溶融炉の排ガス処理において欠かせないフィルターバッグとなっています。



バグフィルター「ADMIREX™」



焼却炉などの排ガス処理に「ADMIREX™」は使用されています。

ゴーセン

バイオガット® ナチュラル

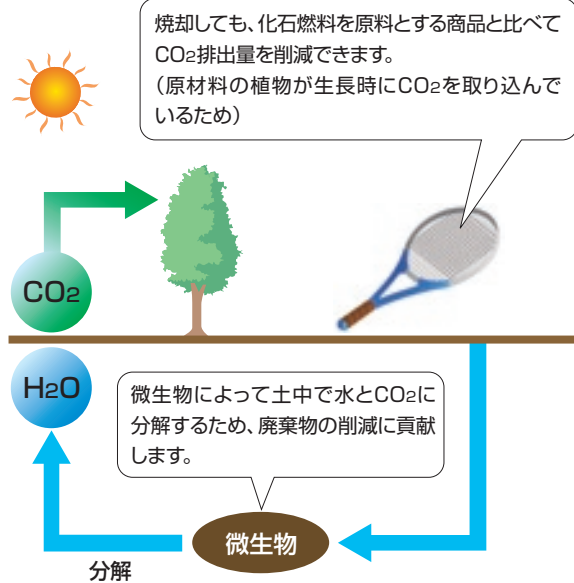
地球にやさしい環境適合性素材

(株)ゴーセンは、ラケットスポーツ用品や釣糸、衣料用縫製糸・産業用加工糸を製造・販売しています。

(株)ゴーセンが開発したソフトテニス用ラケットのガット「バイオガット® ナチュラル」は、原料の90%以上に植物由来のポリ乳酸を使用した世界初のバイオガットです。植物由来の原料を使うため、焼却しても商品としてCO₂排出量を削減できます。土中では微生物により水とCO₂に分解されるため、廃棄物の削減にも貢献します。また、腕・肘に負担のかからないソフトな打球感、優れた反発力があります。



原料にはエコプラスチックであるポリ乳酸を90%以上使用





環境に配慮した商品



再生繊維を用いた「エコロジア企画」

ニッケと帝人(株)、日清紡テキスタイル(株)の3社は、共同でトライアングルプロジェクトを構築し、その企画のひとつとして、1997年に使用済みPETボトルを繊維に再生し使用する「エコロジア企画」を立ち上げました。

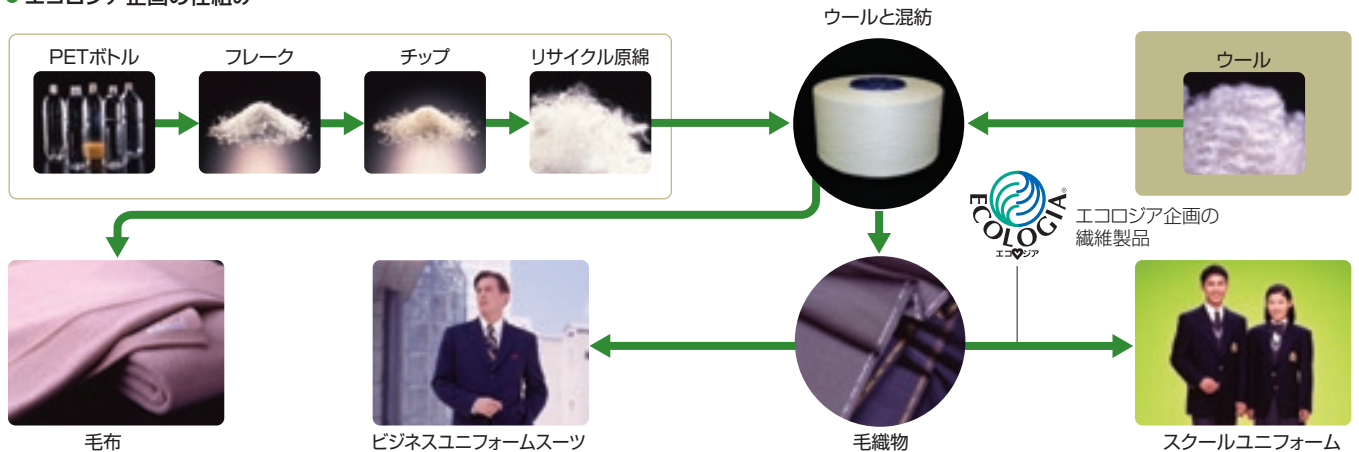
これは、ゴミを減らすばかりではなく、合成繊維の主原料である石油の消費抑制にも役立つ地球にやさしい環境保全活動のひとつです。ニッケグループでは、再生されたポリエステル繊維とウールを混紡し、ユニフォームなどの製品へと加工して、再び社会へ送り出しています。

エコマーク取得商品

エコマークは、生産から廃棄にわたるライフサイクル全体を通して環境への負荷が少なく、環境保全に役立つと認められた製品・サービスに付けられる環境ラベルです。マークの使用については、(財)日本環境協会エコマーク事務局が管理しています。

商品類型ごとに設定されている厳しい認定基準を満たした商品のみエコマーク表示が許諾され、ニッケのエコマーク取得商品には、学生服用生地、ビジネスユニフォーム用生地、毛布などがあります。

● エコロジア企画の仕組み



「エコネットワーク」製品リサイクルシステム

限りある資源を大切に使い地球環境を保全することは、現代社会を生きる私たちに課せられた義務であり責任です。繊維業界においても、製品回収・再生に向けた意識が高まってきています。

素材のリサイクルによって、地球環境への負荷を減らすため、ニッケと(株)ガイドーリミテッド、大東紡織(株)の3社は、1998年に共同でウールリサイクルシステム「エコネットワーク」を構築しました。

「エコネットワーク」の回収製品は、ウール100%と、ウールと他繊維の複合素材による衣料製品(メンズスーツなどの一般衣料、スクールユニフォーム、ビジネスユニフォームなど)を対象としています。

「エコネットワーク」会員からの着用済み衣料は、専用袋で指定のリサイクル工場へ回収しています。これらの回収製品を産業資材などとして再生し利用することで、原材料の節減と廃棄物の減量を両立します。

● エコネットワークの仕組み





ショッピングセンター運営での取り組み

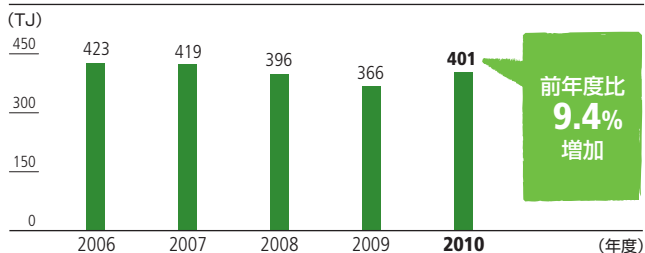
ニッケは国内2カ所で大規模なショッピングセンターを運営しています。地域の皆様に憩いの場を提供し、人々の交流を深めるとともに、地球環境にやさしいショッピングセンターをめざして設備を改善しています。

ショッピングセンターでの環境保全

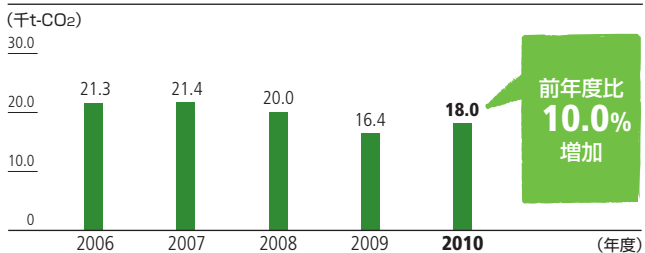
省エネルギーのために、冷温水発生機の高効率機器への更新、日射遮へいフィルムや遮光幕の利用による空調エネルギーの削減などに取り組んでいます。

またお客様が歩行する通路にドライミストといった環境負荷の少ない冷房設備を計画的に設置するほか、駐車・駐輪場の緑地化や屋上散水・屋上緑化などに取り組んでいます。しかし、昨年夏の猛暑の影響とコルトンプラザの増床により、エネルギー使用量、CO₂排出量、用水使用量、廃棄物発生量は増加しました。

● ショッピングセンターでの総エネルギー使用量



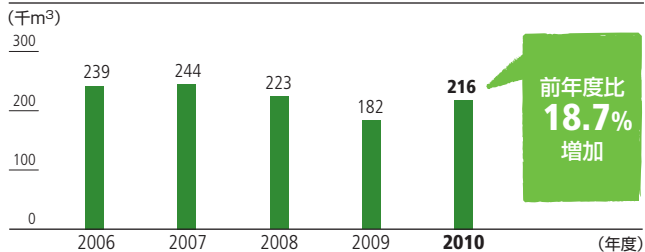
● ショッピングセンターでのCO₂排出量



用水量の削減

施設内のトイレ、洗面所には節水型の機器を導入し、水使用量の削減に努めています。

● ショッピングセンターでの用水使用量



廃棄物の削減

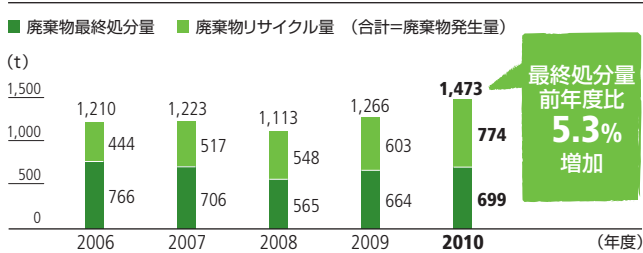
可燃ゴミ、紙くず、廃プラスチックなどにきめ細かく分別してリサイクル量を増やし、廃棄物処分量の減量に取り組んでいます。

剪定くずによるバイオネット（木の葉や枝を積み重ねてつくる昆虫や小動物のすみか）づくりや落ち葉のコンポスト化（堆肥化）にも取り組み、手造りの庭で再利用しています。



廃棄物の分別

● ショッピングセンターでの廃棄物発生量・リサイクル量・最終処分量



憩いの環境づくり

地域の皆様の憩いの場となるように、広場にはトピアリー（樹木や低木を刈り込んで作成される造形物）や、四季咲き花木の鉢、休憩用のベンチを配置しています。

また、噴水設備から流れる小川は貯水池につながっており、貯水池で水をろ過・殺菌し循環使用しています。



広場のトピアリー

地域への情報発信

館内に設けたギャラリーでは、「環境保全」「交通安全」「防火」「省エネ」などのポスター展を開催して、地域への広報活動に努めています。

また、特別支援学校の児童生徒の社会経験や地域との交流を目的とした「職場体験学習」の場を提供しています。



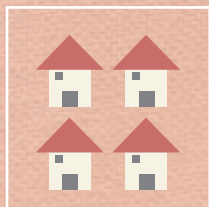
学童交通安全ポスター展

社会への取り組み

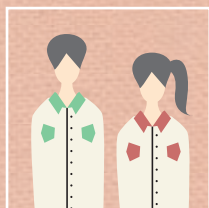
すべてのステークホルダーに信頼される企業をめざして、新たな価値の創造や、人間家族・地域社会に貢献していきます。



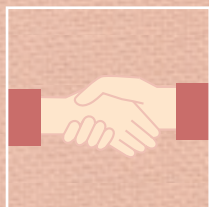
お客様とともに...23



地域社会とともに...25



従業員とともに...26



取引先様
株主様とともに...28



社会への取り組み
お客様とともに



お客様の安全確保

ISO9001マネジメントシステムに基づくPLP委員会を各部門に設置し、製品安全と品質管理体制の継続的な見直しと強化を図っています。

品質管理体制

ニッケグループでは、商品の製造・販売過程で、各種法律・規格・基準に合致していることを検査・検証し、商品に対して責任を持つ製造・検査プロセスと品質保証体制を確立・維持しています。

たとえばニッケ繊維製品製造部門では、資格認定者である検査員が製造の各工程で品質基準に適合しているかを検査し、商品の品質を保証しています。

ニッケの印南工場・岐阜工場、アンビック(株)、(株)ゴーセン天神工場、(株)ニッケ機械製作所では、品質マネジメントシステムISO9001認証を、取得しています。

2010年度も、お客様との定期的な品質会議や技術巡回を通じて、さらなる品質向上対策を実施しました。

ショッピングセンターでの安全確保

ショッピングセンターに来場されるお客様への安全・安心を追求するために、段差のない館内通路とするとともに、ニッケパークタウンではウォークスルーエレベーター^{*}を設置し、ニッケコルトンプラザでは身障者用のエレベーターを導入しています。

また、使いやすい身障者用駐車場、防犯・防災カメラやAED(自動体外式除細動器)などの設備の充実を図っています。

^{*}ウォークスルーエレベーター:車椅子で乗り込む場合、降りるときに後進しなくてもよいように、かごの前後に出入り口を配置したエレベーター。



AED(自動体外式除細動器)



ウォークスルーエレベーター



お客様の安全確保



製品安全

ニッケグループでは「製品安全宣言」および製品安全対策要綱と同規定に基づき、製品の安全性を確保・検証するために、「ニッケグループPLP委員会」を設けるとともに、部門ごとに設置した「部門PLP委員会」が具体的な活動を推進しています。

たとえばニッケ繊維製品製造部門では、針や金属片の混入防止のために、残針管理者によるチェックや金属検知機による

検査を実施し、その結果と対策をPLP委員会で毎月検証しています。

また原料については、検査結果を定期的に供給先にフィードバックし、必要であれば技術指導しています。品質への影響がある加工委託品も受入検査し、定期的に品質向上対策会議を実施するほか、薬品油脂類は継続採用品についても定期的に化学物質等安全データシートを見直して確認しています。

情報の適切な取扱い



お客様の個人情報保護については「ニッケグループ個人情報保護規定」に基づいて管理を徹底するとともに、グループ内外で保有する知的財産情報も「環境・知財管理室」を中心に適切に取り扱っています。

個人情報の保護

ニッケグループが事業を継続する上で最も大切な資産は情報であることを認識し、個人情報の適切な取り扱いと保護が社会的責務であると考えています。ニッケグループは2005年に「ニッケグループプライバシーポリシー」と「ニッケグループ個人情報保護規定」を定めるとともに、これらに基づいた管理体制を構築することで、個人情報の適切な取り扱いができるよう管理を徹底しています。また、「ニッケグループ企業倫理ハンドブック」やコンプライアンス社内報などによって、定期的な啓蒙活動も実施しています。

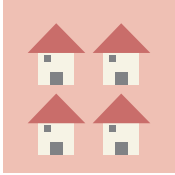
なお、2010年度において、ニッケグループで個人情報漏洩などの事故は発生していません。

これからも引き続き、情報資産の重要性を認識しつつ、時代に即応した適切な個人情報管理体制の構築に努めます。

知的財産の尊重

ニッケでは2008年12月1日付で「環境・知財管理室」を設置しました。ニッケグループ全体が保有する知的財産の管理を統括する体制とすることで、グループが所有する特許の有効利用・防衛などに対処しています。共同研究などにおける秘密保持契約の締結や創出された発明の取り扱いなどにも対応するとともに、グループ外の知的財産の尊重も徹底するように図っています。

また、ニッケグループでは、社員が業務に関連して創造した知的財産を「発明考案規程」に基づいて評価・処遇しています。環境・知財管理室を中心に、社員の発明報奨制度の活用を図っています。



社会への取り組み 地域社会とともに



社会貢献活動

ニッケグループはスポーツ・文化支援事業を通じて、次世代を見つめた社会貢献活動に取り組んでいます。

「ニッケ全日本テニス選手権85th」に特別協賛

ニッケグループの事業と関連のあるテニスとスポーツ振興に資するため、(財)日本テニス協会主催「ニッケ全日本テニス選手権第85回大会」の特別協賛(冠スポンサー)を実施しました。本大会は国内最高峰のテニス大会で、2010年10月30日から11月7日にかけて東京都・有明で開催されました。

今年もニッケグループは会場内で「ニッケ親子テニススクール」や「森上亜希子プロクリニック」などの、一般観戦者・テニス愛好家を対象としたサポートイベントを実施しました。



ニッケ全日本テニス選手権

いる本大会への参加選手は過去最高の4,955名にのびりました。今大会は加古川市制60周年を記念し60位の特別賞が設けられ、市のキャラクターである「ウェルビー」も登場し花を添えました。

「第5回ニッケ ピュアハート エッセー大賞／イラスト大賞」の実施

次代を担う若者を応援する文化支援事業として、2006年度から「等身大のPure Heart」をテーマに、「ニッケ ピュアハート エッセー大賞／イラスト大賞」を主催しています。

2010年度のエッセー大賞は、「高校の部」「中学の部」の2部門で日本語エッセーを募集し、23,000作品の応募がありました。今回も特別審査員には作家の乙武洋匡氏をお招きし、高校の部の予備審査で選ばれた生徒とのトークセッションを開催しました。

イラスト大賞は年齢不問の企画として、子どもから大人まで、それぞれの夢や伝えたい気持ちを描いた心温まる3,700作品の応募がありました。

それぞれの入賞作品は2011年3月に『ニッケ ピュアハート エッセー・イラスト集 Vol.5』(かんぼう発行)として出版されます。



エッセー大賞受賞者

主催:ニッケ(日本毛織株式会社) 後援:全国都道府県教育委員会連合会

「第22回加古川マラソン大会」に特別協賛

兵庫県加古川市が主催する「第22回加古川マラソン大会」に特別協賛しました。ニッケは1896年の創業以来同市と発展とともにし、印南工場・加古川事業所・ニッケパークタウンほか多くの事業拠点を持つ企業として、1990年の第1回大会から継続して特別協賛しています。



加古川マラソン

同市の冬の風物詩となって

地域社会との対話

地元小学生の工場見学などの取り組みを通じて、積極的に地域社会とのコミュニケーションを図っています。

工場見学の実施

毛織物の国内有数の産地にある愛知県の一宮事業所では、20年以上前から地元小学生の工場見学を受け入れています。現在は小学3年生の社会科の副読本にも記載されており、2010年度は8校延べ1,092名の小学生が見学に訪れました。

見学では、ビデオで工場の概要を紹介した後、羊の毛から



小学生の工場見学(一宮事業所)

毛織物ができるまでの工程を案内し、ものづくりの楽しさを体験いただいています。

ショッピングセンターが災害時の避難場所に指定

2010年8月、ニッケコルトンプラザは市川市と災害時等における支援に関する協定を締結しました。

災害時には、駐車場などのスペースやトイレなどを避難所施設として利用していただくほか、飲料水として受水槽上水や、食品や日用品といったテナントの商品を提供します。



社会への取り組み 従業員とともに

働きやすい職場環境づくり

社員の幸せを追求し、希望と生きがいの持てる企業グループをめざして、ニッケグループでは、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいます。

人権の尊重

ニッケグループは安全で働きやすい職場環境を確保するとともに、雇用機会均等、社員の能力開発などを図り、関係するすべての人々の人権を尊重し、差別のない明るい職場をつくります。「ニッケグループ企業倫理ハンドブック」には、「人間の尊重」として上記を掲げ、人権を尊重した職場づくりに努めています。

2010年度も管理職を対象にした「労務管理セミナー」の中で、セクシャルハラスメント・パワーハラスメントの防止についての教育を実施し、人権の尊重を徹底しました。

人財ビジョン

ニッケグループは中長期ビジョン「NN120ビジョン」実現のために、2008年度に「人財ビジョン」を策定しました。この中で「人財理念」として「社員の使命は、仕事を通じて自ら学び自ら成長すること」、「会社の使命は、成長しようと努力する社員に対して支援すること」と決めました。

これらを踏まえて、教育制度では階層別教育の実施や語学研修などさまざまな制度改革に取り組みました。また、給与制度ではチャレンジグレード制を採用し、努力し成長したものが昇給・昇格できる制度を構築しました。(人財ビジョン、階層別教育については、7-8ページ「特集」参照)

多様な人財の雇用

ニッケでは、高齢者雇用や障がい者の雇用など、多様な人財の雇用に取り組んでいます。高齢者については、2009年4月以降に60歳になった方から、生涯のライフスタイルの安定を図るため、65歳定年制度を施行しました。雇用の安定を基礎に、その中で多様な働きがいを持つことのできる企業をめざしています。

また、障害者雇用率は前年度を上まわる2.11%となりました。今後とも障がい者の雇用に積極的に取り組みます。

仕事と家庭の両立

ニッケは社員に対する福利厚生制度として、女性が出産・育児後も離職をせずに仕事を続けられるよう、法定日数・期間を上

まわる出産休暇・育児休職の制度を設けて、社員の仕事と育児の両立を支援しています。2010年度は5名が出産休暇・育児休職を取得しました。

また、今後ますます重要になる介護休職制度についても法定期間を上まわる休職期間を設け、介護世代への支援を広げています。2010年度の介護休職制度の利用者は1名でした。

●2010年度の「出産休暇・育児休職制度」「介護休職制度」利用者

	法定	ニッケでの制度内容	利用者数
出産休暇	産前6週・産後8週	産前産後各8週	5名
育児休職	1歳 (一定の場合1歳6カ月)	出産休暇終了後1年 (一定の場合1歳6カ月もしくは 1歳を超えた年度末まで)	5名
介護休職	93日	勤続5年未満 6カ月 勤続5年以上 1年	1名

従業員との対話

社員が安心して生き生きと働ける職場をめざして、労使対話や社内コミュニケーションを活性化させています。

社内コミュニケーション

創立120周年の2016年に向けた「ニッケグループ中長期ビジョン(NN120ビジョン)」の理念を浸透させるべく、社長自ら巡視し各グループ会社・事業所とのコミュニケーションを深めています。



衣料繊維事業(岐阜工場)



資材事業(株)コーセン



エンジニアリング事業
(株)ニッケテクノシステム



コミュニティサービス事業



社会への取り組み 従業員とともに

働きやすい職場環境づくり

技術の伝承

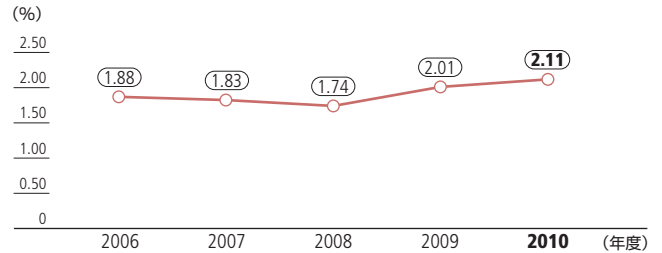
ニッケでは、熟練者による後輩社員へのマンツーマン教育などを継続的に実施し、確実な技術の伝承に努めています。

障がい者雇用の取り組み

当社は障がい者雇用率の達成・維持に努力する一方、障がい者の方にも働きやすい環境を整備して本社・事業所はもとよりショッピングセンターでも活躍できる職場を提供しています。

● 障がい者雇用率

○ 身体障がい者または知的障がい者の雇用率



労働安全衛生

社員が心身ともに健康で安心して働ける職場環境づくりに努めています。

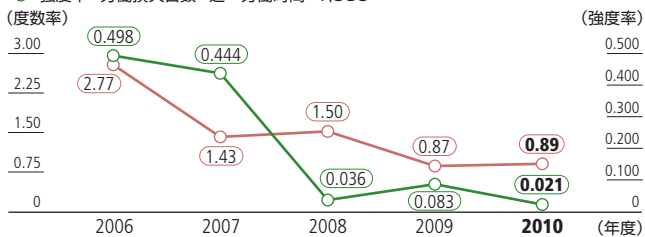
労働安全マネジメントシステム

ニッケでは、年度ごとに安全衛生計画を立案し、着実に実行すべく取り組んでいます。

また、ニッケグループでは、グループ内で発生した労働災害の情報をすべての製造事業所で共有することで、同様の災害を未然に防止するよう努めています。各製造事業所で共通する主要なテーマとしては、リスクアセスメントによるリスクレベルの低減、安全意識の高揚、5Sの徹底、標準動作の見直し、危険予知活動、安全教育の徹底、交通安全教育などがあります。

● 度数率・強度率

○ 度数率=労働災害発生件数÷延べ労働時間×100万
● 強度率=労働損失日数÷延べ労働時間×1,000



適正な労使関係

労働組合での対話集会で提起された職場環境の改善などに取り組んでいます。社員の健康増進と年次有給休暇取得率の向上

のため、本人や家族の誕生日、結婚記念日などに休暇を取得する「メモリアル休暇制度」を設け、労使で職場環境の改善に取り組んでいます。

また、定時退社日として毎月、ヘルスケアデーを設定し、強化月間である6月に労使で職場巡回しています。

保安防災の取り組み

ニッケでは毎年策定する管理計画に基づいて、保安防災に取り組んでいます。2010年度も、ニッケ各事業所では近隣グループ会社と連携して、放水訓練、緊急・避難訓練、消火器を使った初期消火訓練、防火パトロール(工場内・社宅・寮)を実施しました。こうした訓練の実施内容については、社内報に掲載しグループ全社員の意識高揚を図っています。

また、自動火災報知器や消火器など消防設備の定期点検も実施しています。



消火器取扱訓練(一宮事業所)



放水訓練(印南工場)



労働安全衛生

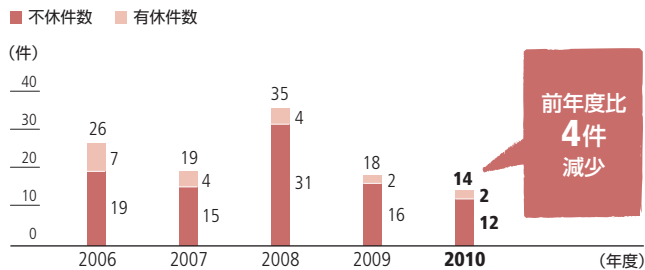
労働災害の防止

ニッケグループでは、安全で衛生的な職場環境を実現することは、社員に対して果たすべき重要な責任であり、また商品の品質を向上させるための第一条件であると考えて、労働災害の防止に努めています。

2010年度、ニッケグループでの労働災害発生件数は不休件数・有休件数を合わせて14件となりました。前年度は18件であり、毎年減少しています。これによって強度率は、前年度の0.0827から0.0213と大幅に改善しました。労働災害が発生した職場については、安全衛生委員会が設備と意識の両面から要因を分析し、対策を講じています。

今後さらに安全衛生活動の充実を図り、災害ゼロに向けて努力を続けていきます。

●労働災害発生件数



心と体の健康への配慮

メタリックシンドローム(メタボ)対策として2010年度は、健康保険組合と協同で特定保健指導セミナーを5回開催しました。健診結果をもとに各個人ごとに日頃の食生活や運動・その他健康に関する幅広い保健指導を実施し、社員がより生き生きとした毎日を送られるようにサポートしています。

メンタルヘルスについては新入社員研修でメンタルヘルスセミナーを実施しました。また管理職研修の一環で「職場のメンタルヘルス」について説明し、部下のメンタルヘルス問題への対応能力を高めるなど、「心の健康」対策に取り組んでいます。

公正な取引

取引において、国内・海外を問わず、また取引先様が官公庁であるか私企業であるかを問わず、正しい判断と節度ある行動に努めています。

購買取引先様との公正な取引

ニッケグループでは「企業行動基準」に「国内外商取引に関する行動基準」「国内外取引先との付き合いに関する行動基準」「独占禁止法遵守に関する行動基準」を定めて、公正な取引に努めています。

取引先様に対しては、会社の商品やサービスについて、誠意をもって正確に説明し、贈賄や不当な競争制限、架空取引など法令や経営倫理に反することは禁止しています。また事業活動に必要な物品・サービスの調達は、取引先様と対等かつ公平な立場で行うよう徹底しています。

取引先様の選定にあたっては、効率的な調達を果たすため広く門戸を開放し、取引機会の均等を図っています。選定の基準としては、価格、品質、納期、安全性、環境を基本とし、合理的かつ公正に判断するようにしています。

株主・投資家の皆様との対話

ニッケグループは、社会が求めている企業情報を適時、適切に開示し、社会との良好な関係づくりをめざしています。

情報開示の方針

株主様・お客様・取引先様・社員・投資家・地域社会などが必要とする情報は、企業秘密や契約上の守秘義務があるものを除いて積極的に開示しています。

また、国内外の株主や投資家の皆様とのIR(インベスター・リレーション)を重視し、企業経営と事業活動に関する情報を迅速かつ正確に開示しています。



ウェブサイトの「IR情報」ページ

ニッケ(日本毛織株式会社)

本社

「Action-E推進委員会」を立ち上げ、不要な照明の消灯や空調設定温度の見直しによって電力の削減に努めたほか、両面コピーやスキャンの活用など、紙の削減を徹底しました。

設備面では老朽化している空調機を2フロア更新し、空調電力を削減しました。

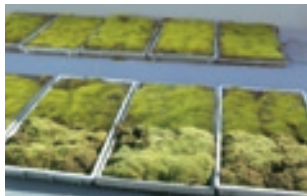


更新した空調機

神戸本店

屋上緑化のためにスナゴケの育成に取り組んでいます。スナゴケには、乾燥・猛暑に対する管理が容易、積載荷重2.5kg/m²、保水能力10L/m²と軽量といった利点があります。散水の有無による状態を確認したところ、乾燥状態時に野鳥が啄んでコケの剥離が見られましたが、ほとんど手をかけずに1年間管理することができました。

今後も屋上緑化にスナゴケを採用する計画です。



屋上緑化のためのスナゴケ

東京支社

フロアの再編によって使用フロア階数を3階から2階に集約したほか、定時退社の促進や「ライトダウンキャンペーン」への参加などに取り組み、照明・空調用電力を削減しました。

北海道営業所

ペットボトル・缶・ビン・段ボールの分別とリサイクル、無駄なコピーの削減など、資源保全に取り組みました。

また、室温管理の徹底や必要箇所以外の消灯など、省エネ対策にも取り組みました。

仙台営業所

休憩時間中の消灯や空調設定温度の管理を徹底し、省エネ対策を継続しました。

コピー用紙は再生紙を購入するとともに、裏面利用も継続。ペットボトル、缶などの分別を継続しました。

名古屋営業所

コピー用紙の再生紙使用、社内用コピーの裏面利用のほか、無駄なコピーを排除し、印刷枚数を削減しました。

また、事務所空調機の温度管理の徹底、不使用時の消灯にも取り組みました。

広島営業所

事業系ゴミは、6種類の分別ボックスで回収・リサイクルしています。また、室内灯・空調機のコマメなON・OFFや外気の積極的取り込み、営業車のエコドライブとアイドリングストップを実践しました。

環境省実施の「ライトダウンキャンペーン」に継続参加したほか、本年から社員を対象にペットボトルの「エコキャップ回収運動」を始めました。



エコキャップ回収ボックス

九州営業所

空調設定温度の管理徹底、不要照明の消灯などの省エネ対策に取り組みました。

また、コピー用紙の裏面利用、コピー枚数削減などに取り組み、一方、ペットボトル・缶・ビン・新聞・段ボールの分別を徹底し資源保全に取り組みました。

印南工場

【ユニフォーム素材・カーペットの製造】

ISO14001 認証取得/2000年11月 (登録番号 JMAQA-E156)

生ゴミ処理機を導入し、毎月300kg以上発生していた生ゴミを30kg程度まで減量することができました。

また、この処理機から発生する処理液は肥料として花壇などで利用しています。



生ゴミ処理機

一宮事業所

【メンズ・レディスファッション素材を中心に製造】

ISO14001 認証取得/2007年12月 (登録番号 JMAQA-E724)

昨年度に引き続きガス吸収式冷凍機を更新し、省エネに取り組みました。

今後は、環境目標を達成するために省エネ機器の導入、生産機械の効率的な運転などに取り組んでいきます。



ガス吸収式冷凍機

岐阜工場

【毛糸の製造】

ISO14001 認証取得/2001年10月 (登録番号 JMAQA-E234)

糸蒸しボイラの更新に際して、糸蒸し蒸気使用量を見極め、ボイラ能力を500kgから350kgに変更し、ガス使用量の削減とボイラ効率アップに取り組みました。

各職場において徹底した廃棄物の仕分けを実施し、廃棄物の削減とリサイクル率(本年99.2%)の向上に取り組んでいます。

ニッケコルトンプラザ

【ショッピングセンター】

2009年5月のリニューアルによる増床で、2010年度は廃棄物の増加が見込まれたため、テナントと協力して資源化・生ゴミの分別を徹底した結果、継続的に可燃物を減少させることができました。

分別収集も徹底してリサイクル量も増加し、リサイクル率は9月以降5割を超えました。



資源ゴミの分別収集

ニッケパークタウン

【ショッピングセンター】

昨年度の東アウトモールに続き、西側のアウトモール(通称けやきひろば)にドライミストを設置しました。

水を霧状に噴霧し、その気化熱で温度を3~4℃下げることができるため、ヒートアイランド現象の緩和に貢献しました。



西側アウトモールのドライミスト

衣料繊維事業

株式会社ナカヒロ

【衣料繊維製品および繊維資材製品の販売】

ISO14001 認証取得/2002年6月
(登録番号 E465)

2010年度はISO14001 認証の定期審査を受け、登録更新が承認されました。

省エネルギー・省資源・廃棄物の削減・環境配慮商品の販売および購入を推進しており、2010年度は社員を対象にエコキャップの回収を開始しました。



エコキャップ回収ボックス

アカツキ商事株式会社

【衣料繊維製品の販売】

ISO14001 認証取得/2001年9月
(登録番号 JSAE419)

2010年度はISO14001 認証を取得して9年目となり、8月に登録更新が承認されました。

2010年度は省エネ活動として、空調設定温度の厳守、「電力の見える化」によるデマンド対策、ノー残業デー退社時間厳守を徹底。経費の節減にも成果がでています。また、職場の4Sを推進し職場環境の美化とともに無駄のない環境づくりにも取り組みました。

佐藤産業株式会社

【衣料繊維製品の製造・販売】

ISO14001 認証取得/2001年11月
(登録番号 JE0129D)

2010年度はISO14001 認証を更新。環境対応車を導入し、一層の環境負荷軽減に努めました。

ニッケグループ会社で進める広域認定制度に参画し、自社商品のリサイクル効率の向上をめざしています。

大成毛織株式会社

【織物の製造】

例年通り、シルバーさんによる植栽の剪定・消毒や、社員による除草など、緑地の手入れを実施しました。中国人実習生による空き地の畑利用も継続しています。



空き地を利用した畑

株式会社中日毛織

【織物の製造】

環境保全活動として、事務所および倉庫照明の不要時消灯、空調温度管理と不要時節電、コピー用紙の裏面利用、ゴミ減量化と分別仕分け、残糸の再利用、社有車の利用節減に全社員が取り組みました。



ゴミの分別ボックス

尾州ウール株式会社

【毛糸の製造】

2年前、食堂南側に植えた八丈葎が2010年度は目的通り夏場の太陽光を遮るまで(高さ4m)になりました。

また、照明や空調機の有効使用によって省エネを徹底。書類の電子化、コピー用紙の裏面利用により紙使用量を削減しました。



日除けのための八丈葎

日誠毛織株式会社

【毛糸の製造】

2010年度は、燃糸室に排気ダクトを取り付けました。

燃糸室は、夏は40℃を越す大変蒸し暑い場所です。機械の熱がダクトを通り外に放熱されるため、エアコンの温度管理など省エネに大変役立ちました。



燃糸室の排気ダクト

金屋ニット株式会社

【ニット製品の製造・販売】

前年度に引き続き日常的に、裁断くずの再生利用や節水、昼休みの消灯や空調温度の管理といった節電など、身近なところから全員で環境に取り組んでいます。

株式会社キューテック

【織物製品の縫製加工】

前年度に引き続き工場内の不要照明の消灯、コピー用紙の裏面利用に努めました。

また、電気使用量を把握できるECOモニタを有効利用することで、最大需要電力の削減を進め、172kWから159kW、さらに143kWと数値を下げることができ、コストダウンにもつながりました。



ECOモニタ

日毛(上海)貿易有限公司(SNK)

【中国国内をはじめとする海外向け毛糸の販売】

2009年度から社員の健康管理のために事務所内の全面禁煙を実施してきましたが、2010年度は8階会議室も全面禁煙としました。

日常の業務においては、継続してコピー用紙の裏面利用および枚数削減によって、資源保全と廃棄物削減に努めています。またペーパーレスをめざし、各種資料(営業販売資料関係、未回収金チェックなど)は各社員がパソコンで閲覧できるように対応しています。

江陰日毛紡績有限公司(JNS)

【毛糸の製造・販売】

節水のため、すべての蛇口を取り替えました。その結果、用水量は前年度比で約10%削減することができました。

2009年度から継続して2010年度も、江陰日毛印染有限公司(JND)と合同で、4カ月に1回、全社員を対象とする環境専門委員会主催の研修教育を実施しました。2011度も計画的に進めます。



JNDと合同での環境に関する研修教育

衣料繊維事業

江陰日毛印染有限公司 (JND)

【色トップの製造】

工場・事務所内についてインバーター式蛍光灯に更新しました。照明の電気使用量は2009年度比約40%削減、JND全体電力使用の7%に相当する省エネになりました。

使用薬剤などの変更によって、引き続き、染色時間を短縮して、省エネルギーに努めています。



インバーター式蛍光灯

青島日毛織物有限公司 (QNF)

【織物の製造加工】

段ボール、使用済薬品ケース、糸くず・生地断片・使用済紙類のリサイクルと使用済みコピー用紙の裏面使用に努めました。また工場周りの緑化にも取り組みました。

省エネ対策として、製造現場・事務所・トイレの不使用时の消灯を徹底したほか、省エネ蛍光灯を448本購入し順次取り替えました。

NIKKE PORT PHILLIP SCOURING PTY., LTD (NPS)

【原料加工】

VWPと共同で、加工中に発生する土砂や植物質をコンポスト(堆肥)として利用するため、他の材質が混ざらないように分別の徹底を2010年8月に開始しました。

資材事業

アンビック株式会社

【繊維資材製品の製造・販売】

ISO14001 認証取得/2001年11月 (登録番号 JQA-EM1898)

省エネ活動の一環として、蒸気を回収するスチームトラップの総点検を実施し、交換の必要な16台を更新しました。

また、プレスフェルト精練作業を見直し、年間、電力19,000kWh、ガス36,000m³の削減につながりました。



スチームトラップの総点検

日本フェルト工業株式会社

【繊維資材製品の加工】

電気を一切使わない太陽光照明を通路に4灯設置しました。

晴天はもちろん曇天、雨天の日も蛍光灯を使わずに済み、年間1,427時間の節電になりました。



電気を使わない太陽光照明

株式会社ゴーセン

【テニス・バドミントンラケット、釣糸、産業資材の製造・販売】

ISO14001 認証取得/2005年4月 (登録番号 JQA-EM4701)

節水のため、工場内のクーリングタワーを更新し、冷却水の再利用が可能な工程を拡大しました。



更新したクーリングタワー

ホクレン株式会社

【繊維資材の染色加工】

2010年度は、使用済み切手・プルタブ回収による社会貢献活動を開始しました。

また、事務用品を使い捨てから詰め替えタイプに変更してゴミの削減に努めたほか、継続して排水処理水の分析を年3回実施し、異常の有無を確認しています。

江陰安碧克特種紡織品有限公司 (JAF)

【繊維資材製品の製造加工】

2010年5月から始めたISO14001認証取得活動は、2011年1月に審査が終わり、3月には認証を取得する予定です。



ISO14001 認証取得に向けた会議

安碧克(香港)有限公司

【繊維資材製品の販売】

アンビック(株)製造の不織布「ヒメロン」は、ノンハロゲン、ノンホルマリン、RoHS指令(欧州特定危険物質使用制限)の有害物質を一切含んでいない環境にやさしい不織布で、液晶TVなどに用いられています。

2010年度この「ヒメロン」を、中国市場を中心に販売を促進し、販売量を2009年度比65%増加することができました。

上海高織製紐有限公司

【繊維資材製品の製造】

ISO14001 認証取得/2004年3月 (登録番号 01 104 031654)

コピー用紙の裏面利用や、不要な時の工場内の全面消灯を継続しています。

また、原糸くずのリサイクル化も継続して取り組んでいます。

エンジニアリング事業

株式会社ニッケ機械製作所

【機械設計・製造・販売】

ISO14001 認証取得/2004年11月 (登録番号 1664297)

当社はISO14001認証を取得しており、法令遵守などに留意しつつ日々活動しています。

2010年度は、節電や裏紙使用の推進などに取り組みました。また、拭き取り用洗浄剤を変更し環境負荷の低減を実施しました。

株式会社ニッケテクノシステム

【電子・電気計測器、制御装置、および専用機的设计・製造・販売】

節電、コピー用紙の削減などに取り組みました。

また、RoHS指令(欧州特定危険物質使用制限)に対応した商品を2010年度より発売しています。来年度以降も、随時RoHS指令に対応した商品を市場に投入し、環境にやさしい商品の開発に取り組んでいきます。

徳士計測儀器(香港)有限公司

【電子・電気計測器、制御装置的设计・製造・販売】

節電、コピー用紙削減などに取り組みました。コピー機は節電型を導入し、節電に努めました。

一部の代理店への請求書の郵送は電子化することで、コピー用紙と封筒の使用量の削減を進めました。

徳士計測儀器(深圳)有限公司

【電子・電気計測器、制御装置的设计・製造・販売】

節電、裏面使用によるコピー用紙の削減に取り組みました。

展示会場ではエコバックの配布などを実施し、カタログなどの移動には再利用可能な布バッグを利用しました。

開発事業

ニッケ不動産株式会社 【住宅などの建設・販売、不動産管理事業】

ニッケ大阪ビルに、各階使用電力量を空調・電灯別に把握できる電力モニタを設置し、大阪ビルに所在するグループ各社の省電力の推進に協力できました。

また、ニッケ神戸ビルでは洋式便器に擬音装置付温水洗浄便座を、和式便器には擬音装置を設置し節水を図っています。

管理するビル・施設においても同様に省エネ・節水などを推進しています。



電力量を把握できる電力モニタ

コミュニティサービス事業

株式会社ニッケ レジャーサービス 【ゴルフ施設運営・管理】

弥富ゴルフコースはナイター照明を1kWから700Wに切り替え、土山コースは冷蔵庫を新品にしたことで電力消費量を抑えました。

また、芝カスや雑草の堆肥化、枯れ葉や折れ枝、倒木や剪定した枝のチップ化に取り組みました。排水マス、側溝の清掃を徹底することで、排水機能が向上し節水につながりました。

さらに、ゴルフ練習場でゴミの分別に努めた結果、生ゴミなどの排出量が抑制されました。

株式会社ニッケ インドアテニス 【テニス施設運営・管理】

使用電力監視システムを有効活用し、電気使用量の抑制を図りました。

さらにボールカゴやカラーコーン、段ボール、雑誌、カタログをリサイクルしました。

今後はLED電球の導入について、費用対効果を検討していきます。

株式会社ニッケ・ ケアサービス 【介護事業】

従来から、5カ所の介護事業所にコージェネ（熱電併給）を設置しており、冬場の床暖房などで大きな威力を発揮しています。

また加古川給食センターで天ぷら油をリサイクルしました。

株式会社ジーシーシー 【携帯電話販売】

従来通り、不要となった携帯電話機器の回収・リサイクル、書類の電子化保存、紙資源の回収再利用を実施しています。

ニッケアウデオSAD 株式会社

【菓子小売・キッズランド・TSUTAYA】

サーティーワンアイスクリーム、TSUTAYAではゴミの分別を徹底しました。

キッズランドでは割り箸から塗箸へ変更、また空調設備の更新により大幅な電気使用量の削減になりました。

株式会社ニッケ・ アミューズメント

【飲食・カラオケ施設運営・管理】

プライベートでも、マイバッグ持参運動をアルバイト社員含む全スタッフに拡大して、明るく楽しく長続きするエコ活動の推進に努めました。

株式会社ニッケ コルトンサービス

【ゴルフ・スポーツ施設運営・管理】

毎朝の清掃作業時に「挨拶運動」を展開するほか、落ち葉、芝カスを肥料、堆肥にして、化学肥料の使用を抑えて廃棄物の減量に努めました。

2010年度は「花壇」「癒しの森」づくりに取り組み、女性のお客様比率が13.1%と前年度よりも0.6ポイントアップしました。

生活流通事業

ニッケ商事株式会社

【毛布・寝装用品の製造・販売、手編糸・スーツの販売】

B4版コピー用紙を廃止し、用紙代を前年度比15%程度削減しました。また、事務所内の消灯を徹底しました。

スーツ販売でのスーツをお買い上げのお客様から古着を回収するサービスは、引き続き実施しています。

双洋貿易株式会社

【馬具・乗馬用品の製造・販売】

裏紙の再生利用を徹底し、できる限りのペーパーレスで業務にあたるなど、資源の有効活用を図りました。

ニッケペットケア株式会社

【ペット用品の製造・販売、ペットフードの輸入販売】

社内資料のペーパーレス化、事務所内の不要照明の消灯、コピー用紙の裏面利用、グリーン購入適合品の優先購入、エアコンの温度管理などに取り組みました。

有限会社ニッケ 一宮サービス

【倉庫管理・運送】

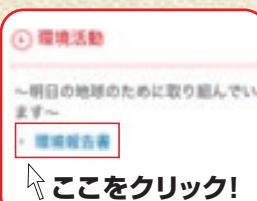
エコドライブのための啓蒙教育として、教育資料「エコドライブ10」に基づいて、2カ月に1回、環境にやさしい車の運転方法などの教育を実施しています。トラック運転手はもとより全社員を対象にしています。

ニッケグループウェブサイトには「環境報告書2011」詳細版を掲載しています

冊子に掲載しきれなかった環境データやパフォーマンス情報、サイト別パフォーマンスデータやガイドライン対照表を追加した「環境報告書2011」詳細版のPDFを、ニッケグループウェブサイトに掲載しています。



このマークがついた情報はウェブのみに掲載しています。



<http://www.nikke.co.jp/csr/index.html> ニッケ CSR 検索

サイト別パフォーマンスデータ

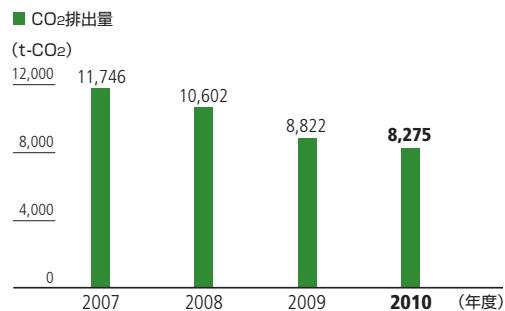
印南工場



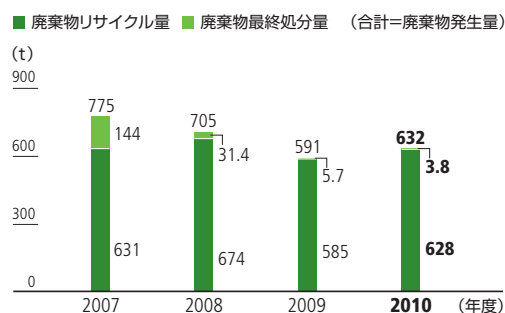
● サイト別パフォーマンスデータ

		2007	2008	2009	2010	前年度比	
エネルギーとCO ₂	CO ₂ 排出量(t-CO ₂)	11,746	10,602	8,822	8,275	94%	
	電気使用量(MWh)	11,233	10,823	10,112	10,195	101%	
	A重油使用量(kL)	—	—	—	—	—	
	都市ガス使用量(千m ³)	3,484	3,084	2,669	2,408	90%	
	プロパンガス使用量(t)	—	—	—	—	—	
	ブタンガス使用量(千m ³)	—	—	—	—	—	
廃棄物	廃棄物 発生量(t)	775	705	591	632	107%	
	廃棄物 リサイクル量(t)	631	674	585	628	107%	
	廃棄物 最終処分量(t)	144	31.4	5.7	3.8	67%	
水	用水使用量(千m ³)	1,237	1,282	1,109	1,209	109%	
	排水量(千m ³)	1,266	1,270	1,118	1,270	114%	
	排水負荷量	COD(t)	15.2	13.8	10.8	11.5	106%
		BOD(t)	5.65	4.57	4.14	4.62	112%
		SS(t)	4.48	5.97	4.92	3.77	77%
大気	SO _x 排出量(t)	—	—	—	—	—	
	NO _x 排出量(t)	3.43	3.77	2.47	2.18	88%	
	ばいじん排出量(t)	0.303	0.721	0.031	0.031	100%	

● CO₂排出量



● 廃棄物発生量・リサイクル量・最終処分量



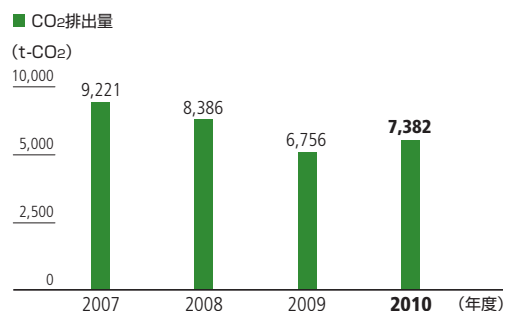
一宮事業所



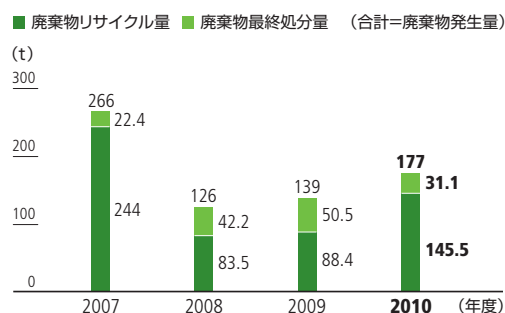
● サイト別パフォーマンスデータ

		2007	2008	2009	2010	前年度比	
エネルギーとCO ₂	CO ₂ 排出量(t-CO ₂)	9,221	8,386	6,756	7,382	109%	
	電気使用量(MWh)	10,470	9,804	7,372	8,376	114%	
	A重油使用量(kL)	—	—	—	—	—	
	都市ガス使用量(千m ³)	2,129	2,094	1,615	1,689	105%	
	プロパンガス使用量(t)	—	—	—	—	—	
	ブタンガス使用量(千m ³)	—	—	—	—	—	
廃棄物	廃棄物 発生量(t)	266	126	139	177	127%	
	廃棄物 リサイクル量(t)	244	83.5	88.4	146	165%	
	廃棄物 最終処分量(t)	22.4	42.2	50.5	31.1	62%	
水	用水使用量(千m ³)	494	549	399	434	109%	
	排水量(千m ³)	417	436	337	355	106%	
	排水負荷量	COD(t)	14.3	12.7	9.2	8.3	91%
		BOD(t)	2.16	2.41	1.41	1.09	77%
		SS(t)	0.888	0.361	0.491	0.416	85%
大気	SO _x 排出量(t)	—	—	—	—	—	
	NO _x 排出量(t)	1.20	1.03	0.97	1.16	120%	
	ばいじん排出量(t)	0.148	0.150	0.138	0.147	107%	

● CO₂排出量



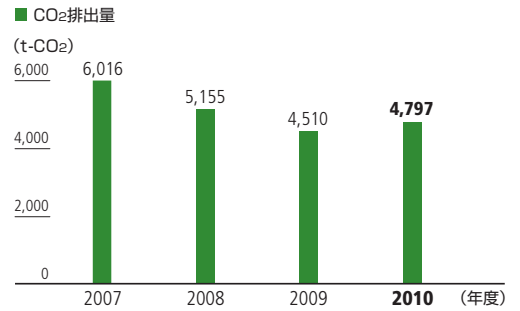
● 廃棄物発生量・リサイクル量・最終処分量



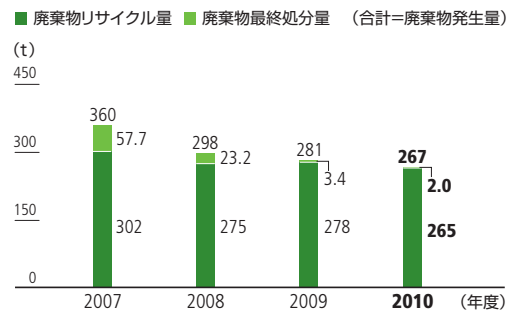
● サイト別パフォーマンスデータ

		2007	2008	2009	2010	前年度比	
エネルギーとCO ₂	CO ₂ 排出量(t-CO ₂)	6,016	5,155	4,510	4,797	106%	
	電気使用量(MWh)	9,593	8,799	7,627	8,118	106%	
	A重油使用量(kL)	517	489	51	0	0%	
	都市ガス使用量(千m ³)	7.16	6.32	328.35	423.02	129%	
	プロパンガス使用量(t)	0.810	0.500	0.570	1.211	212%	
	ブタンガス使用量(千m ³)	12.8	12.2	13.3	13.0	98%	
廃棄物	廃棄物 発生量(t)	360	298	281	267	95%	
	廃棄物 リサイクル量(t)	302	275	278	265	95%	
	廃棄物 最終処分量(t)	57.7	23.2	3.4	2.0	60%	
水	用水使用量(千m ³)	933	859	802	848	106%	
	排水量(千m ³)	917	846	789	833	105%	
	排水負荷量	COD(t)	9.78	11.5	11.2	8.8	79%
		BOD(t)	11.2	10.5	9.4	5.9	63%
SS(t)		5.74	6.55	6.52	7.58	116%	
大気	SO _x 排出量(t)	0.581	0.580	0.071	—	—	
	NO _x 排出量(t)	0.640	0.460	0.299	0.121	40%	
	ばいじん排出量(t)	0.0220	0.0190	0.0019	0.0067	353%	

● CO₂排出量



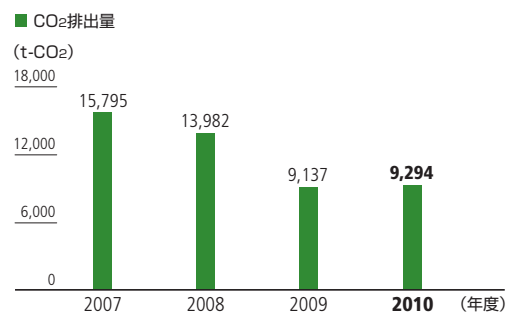
● 廃棄物発生量・リサイクル量・最終処分量



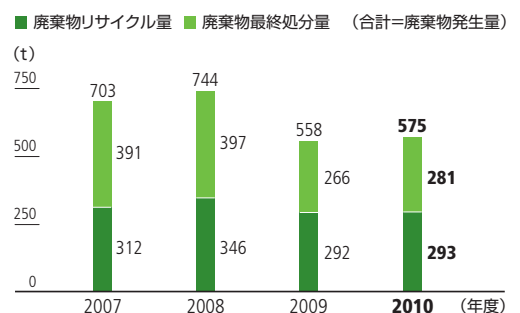
● サイト別パフォーマンスデータ

		2007	2008	2009	2010	前年度比	
エネルギーとCO ₂	CO ₂ 排出量(t-CO ₂)	15,795	13,982	9,137	9,294	102%	
	電気使用量(MWh)	21,991	20,808	13,708	12,831	94%	
	A重油使用量(kL)	647	461	158	118	75%	
	都市ガス使用量(千m ³)	2,143	2,078	1,577	1,934	123%	
	プロパンガス使用量(t)	1.78	1.55	1.58	2.23	141%	
	ブタンガス使用量(千m ³)	—	—	—	—	—	
廃棄物	廃棄物 発生量(t)	703	744	558	575	103%	
	廃棄物 リサイクル量(t)	312	346	292	293	101%	
	廃棄物 最終処分量(t)	391	397	266	281	106%	
水	用水使用量(千m ³)	541	458	397	390	98%	
	排水量(千m ³)	524	417	267	190	71%	
	排水負荷量	COD(t)	5.66	5.41	2.98	3.27	110%
		BOD(t)	0.798	0.660	0.350	0.225	64%
SS(t)		1.84	1.86	1.01	0.83	82%	
大気	SO _x 排出量(t)	1.10	1.14	0.48	0.30	63%	
	NO _x 排出量(t)	2.47	2.05	1.40	1.26	90%	
	ばいじん排出量(t)	0.174	0.0920	0.0220	0.0398	181%	

● CO₂排出量



● 廃棄物発生量・リサイクル量・最終処分量



*報告対象グループ会社：尾州ウール(株)、日成毛織(株)、大成毛織(株)、金屋ニット(株)、アンピック(株)、(株)ゴーセンの国内グループ会社6社。

環境報告ガイドライン対照表

● 環境省「環境報告ガイドライン」(2007年版)との対照表

基本的情報	該当ページ
1 経営責任者の緒言	▶ P.3
2 報告にあたっての基本的要件	▶ P.2
3 事業の概況	▶ P.1
4 環境報告の概要	▶ P.1、P.12
5 事業活動のマテリアルバランス	▶ P.13

環境マネジメント指標	該当ページ
1 環境マネジメントの状況	▶ P.10~11
2 環境に関する規制の遵守状況	▶ P.11
3 環境会計情報	▶ P.10
4 環境に配慮した投融資の状況	—
5 サプライチェーンマネジメント等の状況	—
6 グリーン購入・調達状況	▶ P.14
7 環境に配慮した新技術、DfE等の研究開発の状況	▶ P.19~21
8 環境に配慮した輸送に関する状況	▶ P.16
9 生物多様性の保全と生物資源の持続可能な利用の状況	—
10 環境コミュニケーションの状況	▶ P.10
11 環境に関する社会貢献活動の状況	▶ P.29~32
12 環境負荷低減に資する製品・サービスの状況	▶ P.19~21

オペレーション指標	該当ページ
1 総エネルギー投入量及びその低減対策	▶ P.15~16
2 総物質投入量及びその低減対策	▶ P.13、P.16
3 水資源投入量及びその低減対策	▶ P.13、P.16
4 事業エリア内で循環的利用を行っている物質等	▶ P.13、P.16
5 総製品生産量又は総商品販売量	▶ P.13
6 温室効果ガスの排出量及びその低減対策	▶ P.15~16
7 大気汚染、生活環境に係る負荷量及びその低減対策	▶ P.17~18
8 化学物質の排出量、移動量及びその低減対策	▶ P.17~18
9 廃棄物等総排出量、廃棄物最終処分量及びその低減対策	▶ P.15~16
10 総排水量等及びその低減対策	▶ P.17~18

環境効率指標	該当ページ
環境配慮と経営との関連状況	—

社会パフォーマンス指標	該当ページ
社会的取組の状況	
① 労働安全衛生に関する情報・指標	▶ P.27~28
② 雇用に関する情報・指標	▶ P.26~27
③ 人権に関する情報・指標	▶ P.26
④ 地域及び社会に対する貢献に関する情報・指標	▶ P.25
⑤ 企業統治(コーポレートガバナンス)・企業倫理・コンプライアンス及び公正取引に関する情報・指標	▶ P.4
⑥ 個人情報保護に関する情報・指標	▶ P.24
⑦ 広範な消費者保護及び製品安全に関する情報・指標	▶ P.23~24
⑧ 企業の社会的側面に関する経済的情報・指標	—
⑨ その他の社会的項目に関する情報・指標	▶ P.24



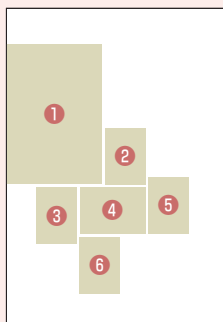
〒541-0048 大阪市中央区瓦町三丁目3番10号
Tel.06-6205-6600 Fax.06-6205-6684

<http://www.nikke.co.jp>

表紙イラストについて

「ニッケ ピュアハート イラスト大賞」第5回(2010年)

次代を担う若者を応援する文化支援事業として「ニッケ ピュアハート イラスト大賞」を実施しています。「等身大の Pure Heart」をテーマに、それぞれの夢や思い出などを描いた心温まる作品が集まりました。



大賞

①「たくさんの思いやり」
奥園 くみさん(神奈川県)

優秀賞

- ② TAKAEさん(島根県)
- ③ 加藤 郁夫さん(東京都)
- ④ 川口 美咲さん(神奈川県)
- ⑤ おおさわさん(東京都)
- ⑥ 阿古 弘さん(兵庫県)



このカタログの印刷は、環境にやさしい
植物油インキを使用しています。



古紙配合率100%再生紙を使用